

犬山市カリキュラム

2020年3月
犬山市子ども未来園

犬山市カリキュラムの作成にあたって

犬山市では、子どものより良い育ちを実現するため、市独自の幼保一体化による幼児教育の充実を進めてきました。

“犬山の子は犬山で育てる”という視点に立ち、「乳幼児期の教育」という観点から幼稚園と保育園の共有化、発達や学びの連続性、親や家庭における教育力の向上を目指した機能の充実等を図ってきました。

平成 19 年 4 月 1 日に、公立保育園、幼稚園を「子ども未来園」という名称にし、幼保共通の『改訂版カリキュラム』を作成、平成 26 年 3 月には、平成 20 年 3 月の『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』改訂を受け、これまで活用してきた『改訂版カリキュラム』の内容に、新たな視点である「子ども未来園の役割」「養護と教育の充実」「食育」「計画・評価・職員の資質向上」などを加え、保育実践の組織化・計画性を高めていく『犬山市カリキュラム 2014 年（平成 26 年）』を作成し、保育の質の向上を進めています。

今日、保育や教育においては、貧困問題や 0.1.2 歳児の入園増加、特別な支援の必要な子どもの増加など様々な課題に直面しています。その一方で、子ども達のよりよい発達と自己実現、さらにさまざまな今日的な課題解決のため、平成 30 年 4 月 1 日『保育所保育指針』が改定され、今後の教育の在り方が示されました。

今回の改定を受け犬山市では「乳児保育と 1 歳児以上 3 歳未満児の保育のねらいと内容の充実」「養護と教育の一体性」「保育所の『幼児教育施設』としての位置づけ」「健康及び安全の記載の見直し」「子育て支援の内容の整理と充実」「職員の資質・専門性の向上」等を明確に位置付けた「改訂犬山市カリキュラム」を作成しました。

カリキュラムに基づく保育実践や園内研修での検証を通して、子どもの理解を深め、更なる保育の質の向上を目指していきます。

目 次

犬山市の保育理念	1
第1章 総則	
1 子ども未来園の保育に関する基本原則	2
(1) 未来園の役割	
(2) 保育の目標	
(3) 保育の方法	
(4) 保育の環境	
(5) 子ども未来園の社会的責任	
2 養護に関する基本的事項	3
(1) 養護の理念	
(2) 養護に関するねらい及び内容	
3 保育の計画及び評価	4
4 幼児教育を行う施設として共有すべき事項	4
(1) 育みたい資質・能力	
(2) 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	
第2章 保育の内容	
1 乳児保育に関わるねらい及び内容	7
(1) 基本的事項	
(2) ねらい及び内容	
(3) 保育の実施に関わる配慮事項	
2 1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容	10
(1) 基本的事項	
(2) ねらい及び内容	
(3) 保育の実施に関わる配慮事項	
3 3歳以上児の保育に関するねらい及び内容	15
(1) 基本的事項	
(2) ねらい及び内容	
(3) 保育の実施に関わる配慮事項	
4 保育の実施に関して留意すべき事項	22
(1) 保育全般に関わる配慮事項	
(2) 小学校との連携	
(3) 家庭及び地域社会との連携	

第3章 健康及び安全

1	子どもの健康支援	23
(1)	子どもの健康状態並びに発育及び発達状態の把握	
(2)	健康増進	
(3)	疾病等への対応	
2	食育の推進	24
3	環境及び衛生管理並びに安全管理	24
(1)	環境及び衛生管理	
(2)	事故防止及び安全対策	
4	災害への備え	25
(1)	施設・設備等の安全確保	
(2)	災害発生時の対応体制及び避難への備え	
(3)	地域の関係機関等との連携	

第4章 子育て支援

1	子ども未来園における子育て支援に関する基本的事項	26
(1)	園の特性を生かした子育て支援	
(2)	子育て支援に関して留意すべき事項	
2	園を利用している保護者に対する子育て支援	26
(1)	保護者との相互理解	
(2)	保護者の状況に配慮した個別の支援	
(3)	不適切な養育等が疑われる家庭の支援	
3	地域の保護者等に対する子育て支援	27
(1)	地域に開かれた子育て支援	
(2)	協力体制及び関係機関との連携	

第5章 職員の資質向上

1	職員の資質向上に関する基本的事項	28
(1)	保育所職員に求められる専門性	
(2)	保育の資の向上に向けた組織的な取組	
2	園長の責務	28
(1)	園長の責務と専門性の向上	
(2)	職員の研修機会の確保等	
3	職員の研修等	29
(1)	職場における研修	
(2)	外部研修の活用	

4 研修の実施体制等	29
（1）体系的な研修計画の作成	
（2）組織内での研修成果の活用	
（3）研修の実施に関する留意事項	

犬山市カリキュラム一覧表	31
--------------	----

年齢別年間計画	34
---------	----

食育年間計画	47
--------	----

保健年間計画	48
--------	----

※ 資料

未満児指導計画

幼児年間計画

*本書では、保育所保育指針より抜粋した文章等により、「保育所」と「未来園」「子ども未来園」、
「保育士」と「保育者」のように、表記が異なる箇所があります。

犬山市の保育理念

「保育者の温かい人間性で保育を展開し、

豊かな心と丈夫な体でよく遊ぶ子どもに育てる」

人として生を授かり、家庭やまわりの人の愛情を受け、十分に養護の行き届いた環境の中で成長できることが、子どもにとって最良の幸せである。

乳幼児期の人格形成の基礎となるものは、“心身ともにゆったりできる温かい家庭環境”にあり、そこでは生命の保持はもとより、親の愛、家族の愛が常に存在することが基礎となる。

園では保育者の温かい人間性で保育を展開し、集団の場をうまく活用しながら人格形成の基礎固めをしていくため、家庭や園、子どもを取り巻く者すべてが、志を一つにして子育てをすることが大切である。

豊かな心

園生活では、情緒の安定を図り豊かな情操を養い、一人一人の子どもの欲求が可能な限り満たされ、安定した気持ちで生活できることが大切である。

子どもは様々な生活場面を通して、いろいろな思いを経験しながら、自分の力で園生活を送っている。子どもが人間らしく成長していく時に、心を動かす出来事に出会えるよう、生活環境全体を豊かにすることが大切である。

丈夫な体

心と体の健康は相互に密接な関連があるものであることを踏まえ、保育者や他の子どもとの触れ合いの中で楽しい遊びを通じて体を動かす気持ちよさを繰り返し体験し、進んで体を動かそうとする意欲が育つようにすることが大切である。

また、生活リズムを大切にし、年齢に応じた基礎的生活習慣を身につけることも必要である。

よく遊ぶ

子どもは、一人でもみんなとでも夢中になって一生懸命遊ぶことで充実感や満足感、達成感を味わう。そのことが自ら身の回りの環境に関わろうとする意欲や態度のもとになり、遊びを発展させていきながら、思考力や想像力など様々な能力を伸ばしていく。

第1章 総則

1 子ども未来園の保育に関する基本原則

(1) 未来園の役割

未来園は、保育を必要とする子どもの保育を行い、その健全な心身の発達を図ることを目的とする児童福祉施設であり、入園している子どもの最善の利益を考慮し、その福祉を積極的に増進することに最もふさわしい生活の場でなければならない。

未来園は、その目的を達成するために、保育に関する専門性を有する職員が、家庭との緊密な連携の下に、子どもの状況や発達過程を踏まえ、園の環境を通して、養護及び教育を一体的に行うことを特性としている。

(2) 保育の目標

園は、子どもが生涯にわたる人間形成にとって極めて重要な時期に、その生活時間の大半を過ごす場である。このため、園の保育は、子どもが現在を最もよく生き、望ましい未来を作り出す力の基礎を培うために、次の目標を目指して実施する。

- ア 十分に養護の行き届いた環境の下に、くつろいだ雰囲気の中で子どもの様々な欲求を満たし、生命の保持及び情緒の安定を図る。
- イ 健康、安全など生活に必要な基本的な習慣や態度を養い、心身の健康の基礎を培う。
- ウ 人との関わりの中で、人に対する愛情と信頼感、そして人権を大切にする心を育てるとともに、自主、自立及び協調の態度を養い、道徳性の芽生えを培う。
- エ 生命、自然及び社会の事象についての興味や関心を育て、それらに対する豊かな心情や思考力の芽生えを培う。
- オ 生活の中で、言葉への興味や関心を育て、話したり、聞いたり、相手の話を理解しようとするなど、言葉の豊かさを養う。
- カ 様々な体験を通して、豊かな感性や表現力を育み、創造性の芽生えを培う。

(3) 保育の方法

一人一人の子どもの状況を把握し、健康、安全で情緒の安定した生活ができる環境や、自己を十分に発揮できる環境を整え、一人一人の発達過程に応じ、乳幼児期にふさわしい体験が得られるよう、生活や遊びを通して、総合的に保育する。また、保護者の状況やその意向を理解し、適切に援助する。

(4) 保育の環境

保育の環境には、保育士等や子どもなどの人的環境、施設や遊具などの物的環境、更には自然や社会の事象などがある。園は、こうした人、物、場などの環境が相互に関連し合い、子どもの生活が豊かなものとなるよう、計画的に環境を構成し、工夫して保育する。

(5) 子ども未来園の社会的責任

- ア 子どもの人権に十分配慮するとともに、子ども一人一人の人格を尊重して保育を行う。
- イ 地域社会との交流や連携を図り、保護者や地域社会に、当園の保育内容を適切に説明するよう努める。
- ウ 園は、入園している子ども等の個人情報を適切に取り扱うとともに、保護者の苦情などに対し、その解決を図るよう努める。

2 養護に関する基本的事項

(1) 養護の理念

保育における養護とは、子どもの生命の保持及び情緒の安定を図るために保育士等が行う援助や関わりであり、未来園における保育は、養護及び教育を一体的に行うことをその特性とするものである。

(2) 養護に関するねらい及び内容

ア 生命の保持

子どもの生命を守り、子どもが快適に、そして健康で安全に過ごすことができるようにするとともに、子どもの生理的欲求が十分満たされ、健康増進が積極的に図られるようにし、子ども一人一人の生きることそのものを保障する。

そのためには家庭・地域連携、保健的で安全な環境の維持などの配慮が必要である。また、適度な運動と休息をとることができるよう配慮したり、生活習慣の習得については、子どもが意欲的に生活できるよう適切に援助することが大切である。

イ 情緒の安定

家庭との緊密な連携のもとに子どもの状況や発達過程を踏まえ、養護と教育が一体的に展開されるよう子どもの健康と安全をしっかりと守り、子どもが安心して快適に過ごせることが大切である。そのためには、一人一人の子どもがあるがままを温かく受け止め、共感し、時には励ますなど、受容的・応答的に関わることで、かけがえのない存在として受け止め、他者との信頼感と自己肯定感を育むよ

うにすることが必要である。また、十分な養護の行き届いた環境の下、くつろいだ雰囲気の中で、子どもの様々な欲求を満たしていくことが情緒の安定につながっていく。

3 保育の計画及び評価

カリキュラム本や各園の全体的な計画を基盤としながら、各担任は長期指導計画や短期指導計画（月週案）を作成し、実践する。未満児については、個別指導計画を作成し、実践する。また、PDCAサイクル「計画→実践→評価→改善」を回しながら、評価・改善をしていく必要がある。

保育者の評価は、自らの保育実践と子どもの育ちを振り返り、次の保育に向けて改善を図り、保育の質を向上させることが目的である。それを通じて職員間の絆や協働性を強め、学び合いの基礎を作り、研修内容の確認や自己研鑽を行っていく機会にもなる。

保育所としての評価は、各園が、保育所として創意工夫していることや独自性などとともに課題を把握し、犬山市カリキュラムや指導計画その他の保育の計画を見直して改善を図ることが目的であり、いずれも、組織として積極的に取り組むことに意義がある。

4 幼児教育を行う施設として共有すべき事項

未来園においては生活の全体を通して、子どもに生きる力の基礎を培うことが求められている。そのため、保育の目標を踏まえ、小学校以降の子どもの発達を見通しながら保育を展開し、育みたい資質・能力を育むことが必要である。

(1) 育みたい資質・能力

生涯にわたる生きる力の基礎を培うため、保育の目標を踏まえ、次に掲げる資質・能力を一体的に育むよう努めることが大切である。

ア 知識や技術の基礎

豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かったり、できるようになったりする。

イ 思考力・判断力・表現力等の基礎

気付いたことや、できるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする。

ウ 学びに向かう力、人間性等

心情、意欲、態度が育つ中でよりよい生活を営もうとする。

(2) 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

乳幼児期にふさわしい生活や遊びを積み重ねることにより、未来園の保育において育みたい資質、能力が育まれている子どもの小学校就学時の具体的な姿であり、特に卒園を迎える年度の後半に見られるようになる姿である。ただし、実際の保育の中では、到達すべき目標ではなく、個別に取り出されて指導されるものではないことに十分留意する必要がある。一人一人の発達に必要な体験が得られるような状況をつくったり必要な援助を行ったりするなど、指導を行う際に考慮することが求められる。

ア 健康な心と体

園の生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活を作り出すようになる。

イ 自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信を持って行動するようになる。

ウ 協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

エ 道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。

オ 社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。

カ 思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

キ 自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探求心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとして、いたわり、大切にす気持ちをもって関わるようになる。

ク 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

コ 言葉による伝え合い

保育士等や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

サ 豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ、感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

第2章 保育の内容

1 乳児保育に関わるねらい及び内容

(1) 基本的事項

乳児期は身近な特定の保育士等による愛情豊かで受容的・応答的なかわりを通し相手との間に愛着関係を形成し、人に対して基本的信頼感を培っていく時期である。さらに自分がかげがえのない存在であり、周囲の人から愛され、受け入れられていることを実感し、自己肯定感を育てていくため、保育士は安心できる安定した環境の下で乳児が自らの生きようとする力を発揮できるよう、生活や遊びの充実が図られる必要がある。

(2) ねらい及び内容

ア 身体的発達に関する視点「健やかに伸び伸びと育つ」

健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力の基礎を培う。

(ア) ねらい

- ① 身体感覚が育ち、快適な環境に心地よさを感じる。
- ② 伸び伸びと体を動かし、はう、歩くなどの運動をしようとする。
- ③ 食事、睡眠等の生活のリズムの感覚が芽生える。

(イ) 内容

- ① 保育士等の愛情豊かな受容の下で、生理的・心理的欲求を満たし、心地よく生活をする。
- ② 一人一人の発育に応じて、はう、立つ、歩くなど、十分に体を動かす。
- ③ 個人差に応じて授乳を行い、離乳を進めていく中で、様々な食品に少しずつ慣れ、食べることを楽しむ。
- ④ 一人一人の生活リズムに応じて、安全な環境の下で十分に午睡をする。
- ⑤ おむつ交換や衣服の着脱などを通じて、清潔になることの心地よさを感じる。

(ウ) 内容の取扱い

上記の取扱いに当たっては、次の事項に留意する必要がある。

- ① 心と体の健康は、相互に密接な関連があるものであることを踏まえ、温かい触れ合いの中で、心と体の発達を促すこと。特に、寝返り、お座り、はいはい、つかまり立ち、伝い歩きなど、発育に応じて、遊びの中で体を動かす機会を十分に確保し、自ら体を動かそうとする意欲が育つようにすること。
- ② 健康な心と体を育てるためには望ましい食習慣の形成が重要であることを踏まえ、離乳食が完了期へと徐々に移行する中で、様々な食品に慣れるよ

うにするとともに、和やかな雰囲気の中で食べる喜びや楽しさを味わい、進んで食べようとする気持ちが育つようにすること。なお、食物アレルギーのある子どもへの対応については、嘱託医等の指示や協力の下に適切に対応すること。

イ 社会的発達に関する視点「身近な人と気持ちが通じ合う」

受容的・応答的な関わりの中で、何かを伝えようとする意欲や身近な大人との信頼関係を育て、人と関わる力の基礎を培う。

(ア) ねらい

- ① 安心できる関係の中で、身近な人と共に過ごす喜びを感じる。
- ② 体の動きや表情、発声等により、保育士等と気持ちを通わせようとする。
- ③ 身近な人と親しみ、関わりを深め、愛情や信頼感が芽生える。

(イ) 内容

- ① 子どもからの働きかけを踏まえた、応答的な触れ合いや言葉がけによって、欲求が満たされ、安定感をもって過ごす。
- ② 体の動きや表情、発声、喃語等を優しく受け止めてもらい、保育士等とのやり取りを楽しむ。
- ③ 生活や遊びの中で、自分の身近な人の存在に気付き、親しみの気持ちを表す。
- ④ 保育士等による語りかけや歌いかけ、発声や喃語等への応答を通じて、言葉の理解や発語の意欲が育つ。
- ⑤ 温かく、受容的な関わりを通じて、自分を肯定する気持ちが芽生える。

(ウ) 内容の取扱い

上記の取扱いに当たっては、次の事項に留意する必要がある。

- ① 保育士等との信頼関係に支えられて生活を確立していくことが人と関わる基盤となることを考慮して、子どもの多様な感情を受け止め、温かく受容的・応答的に関わり、一人一人に応じた適切な援助を行うようにすること。
- ② 身近な人に親しみをもって接し、自分の感情などを表し、それに相手が応答する言葉を聞くことを通して、次第に言葉が獲得されていくことを考慮して、楽しい雰囲気の中での保育士等との関わり合いを大切にし、ゆっくりと優しく話しかけるなど、積極的に言葉のやり取りを楽しむことができるようにすること。

ウ 精神的発達に関する視点「身近なものに関わり感性が育つ」

身近な環境に興味や好奇心をもって関わり、感じたことや考えたことを表現する力の基礎を培う。

(ア) ねらい

- ① 身の回りのものに親しみ、様々なものに興味や関心をもつ。
- ② 見る、触れる、探索するなど、身近な環境に自分から関わろうとする。
- ③ 身体の諸感覚による認識が豊かになり、表情や手足、体の動き等で表現する。

(イ) 内容

- ① 身近な生活用具、玩具や絵本などが用意された中で、身の回りのものに対する興味や好奇心をもつ。
- ② 生活や遊びの中で様々なものに触れ、音、形、色、手触りなどに気付き、感覚の働きを豊かにする。
- ③ 保育士等と一緒に様々な色彩や形のものや絵本などを見る。
- ④ 玩具や身の回りのものを、つまむ、つかむ、たたく、引っ張るなど、手や指を使って遊ぶ。
- ⑤ 保育士等のあやし遊びに機嫌よく応じたり、歌やリズムに合わせて手足や体を動かして楽しんだりする。

(ウ) 内容の取扱い

上記の取扱いに当たっては、次の事項に留意する必要がある。

- ① 玩具などは、音質、形、色、大きさなど子どもの発達状態に応じて適切なものを選び、その時々の子どもの興味や関心を踏まえるなど、遊びを通して感覚の発達が促されるものとなるように工夫すること。なお、安全な環境の下で、子どもが探索意欲を満たして自由に遊べるよう、身の回りのものについては、常に十分な点検を行うこと。
- ② 乳児期においては、表情、発声、体の動きなどで、感情を表現することが多いことから、これらの表現しようとする意欲を積極的に受け止めて、子どもが様々な活動を楽しむことを通して表現が豊かになるようにすること。

(3) 保育の実施に関わる配慮事項

ア 乳児は疾病への抵抗力が弱く、心身の機能の未熟さに伴う疾病の発生が多いことから、一人一人の発育及び発達状態や健康状態についての適切な判断に基づく保健的な対応を行う。

イ 一人一人の子どもの生育歴の違いに留意しつつ、欲求を適切に満たし、特定の保育士が応答的に関わるように努める。

ウ 乳児保育に関わる職員間の連携や嘱託医との連携を図り、第3章に示す事項を踏まえ、適切に対応すること。栄養士及び看護師等が配置されている場合は、その専門性を生かした対応を図る。

エ 保護者との信頼関係を築きながら保育を進めるとともに、保護者からの相談に応じ、保護者への支援に努めていく。

オ 担当の保育士が替わる場合には、子どものそれまでの生育歴や発達過程に留意し、職員間で協力して対応する。

2 1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容

(1) 基本的事項

この時期は、基本的な運動機能が次第に発達し、生活習慣においても身の回りのことを自分でしようとする気持ちが育ってくる。一方で、自分の思う通りにはできずもどかしい思いをしたり、寂しさや甘えたい気持ちが強くなって不安定になったりと、気持ちが揺れ動くこともある。子どものまだ十分には言葉にならない様々な思いを、愛情をもって受け止め、子どもの「自分でしたい」という思いや願いを尊重して、その発達や生活の自立を温かく見守り支えていくことが大切である。

(2) ねらい及び内容

ア 心身の健康に関する領域「健康」

健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくりだす力を養う。

(ア) ねらい

- ① 明るく伸び伸びと生活し、自分から体を動かすことを楽しむ。
- ② 自分の体を十分に動かし、様々な動きをしようとする。
- ③ 健康、安全な生活に必要な習慣に気付き、自分でしてみようとする気持ちが育つ。

(イ) 内容

- ① 保育士等の愛情豊かな受容の下で、安定感をもって生活をする。
- ② 食事や午睡、遊びと休息など、保育所における生活のリズムが形成される。
- ③ 走る、跳ぶ、登る、押す、引っ張るなど全身を使う遊びを楽しむ。
- ④ 様々な食品や調理形態に慣れ、ゆったりとした雰囲気の中で食事や間食を楽しむ。
- ⑤ 身の回りを清潔に保つ心地よさを感じ、その習慣が少しずつ身に付く。
- ⑥ 保育士等の助けを借りながら、衣類の着脱を自分でしようとする。
- ⑦ 便器での排泄に慣れ、自分で排泄ができるようになる。

(ウ) 内容の取扱い

上記の取扱いに当たっては、次の事項に留意する必要がある。

- ① 心と体の健康は、相互に密接な関連があるものであることを踏まえ、子どもの気持ちに配慮した温かい触れ合いの中で、心と体の発達を促すこと。特に、一人一人の発達に応じて、体を動かす機会を十分に確保し、自ら体を動

かそうとする意欲が育つようにすること。

- ② 健康な心と体を育てるためには望ましい食習慣の形成が重要であることを踏まえ、ゆったりとした雰囲気の中で食べる喜びや楽しさを味わい、進んで食べようとする気持ちが育つようにすること。なお、食物アレルギーのある子どもへの対応については、嘱託医等の指示や協力の下に適切に対応すること。
- ③ 排泄の習慣については、一人一人の排尿間隔等を踏まえ、おむつが汚れていないときに便器に座らせるなどにより、少しずつ慣れさせるようにすること。
- ④ 食事、排泄、睡眠、衣類の着脱、身の回りを清潔にすることなど、生活に必要な基本的な習慣については、一人一人の状態に応じ、落ち着いた雰囲気の中で行うようにし、子どもが自分でしようとする気持ちを尊重すること。また、基本的な生活習慣の形成に当たっては、家庭での生活経験に配慮し、家庭との適切な連携の下で行うようにすること。

イ 人との関わりに関する領域「人間関係」

他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う。

(ア) ねらい

- ① 保育所での生活を楽しみ、身近な人と関わる心地よさを感じる。
- ② 周囲の子ども等への興味や関心が高まり、関わりをもとうとする。
- ③ 保育所の生活の仕方に慣れ、きまりの大切さに気付く。

(イ) 内容

- ① 保育士等や周囲の子ども等との安定した関係の中で、共に過ごす心地よさを感じる。
- ② 保育士等の受容的・応答的な関わりの中で、欲求を適切に満たし、安定感をもって過ごす。
- ③ 身の回りに様々な人がいることに気付き、徐々に他の子どもと関わりをもつて遊ぶ。
- ④ 保育士等の仲立ちにより、他の子どもとの関わり方を少しずつ身につける。
- ⑤ 保育所の生活の仕方に慣れ、きまりがあることや、その大切さに気付く。
- ⑥ 生活や遊びの中で、年長児や保育士等の真似をしたり、ごっこ遊びを楽しんだりする。

(ウ) 内容の取扱い

上記の取扱いに当たっては、次の事項に留意する必要がある。

- ① 保育士等との信頼関係に支えられて生活を確立するとともに、自分で何かをしようとする気持ちが旺盛になる時期であることに鑑み、そのような子ど

もの気持ちを尊重し、温かく見守るとともに、愛情豊かに、応答的に関わり、適切な援助を行うようにすること。

- ② 思い通りにいかない場合等の子どもの不安定な感情の表出については、保育士等が受容的に受け止めるとともに、そうした気持ちから立ち直る経験や感情をコントロールすることへの気付き等につなげていけるように援助すること。
- ③ この時期は自己と他者との違いの認識がまだ十分ではないことから、子どもの自我の育ちを見守るとともに、保育士等が仲立ちとなって、自分の気持ちを相手に伝えることや相手の気持ちに気付くことの大切さなど、友達の気持ちや友達との関わり方を丁寧に伝えていくこと。

ウ 身近な環境との関わりに関する領域「環境」

周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。

(ア) ねらい

- ① 身近な環境に親しみ、触れ合う中で、様々なものに興味や関心をもつ。
- ② 様々なものに関わる中で、発見を楽しんだり、考えたりしようとする。
- ③ 見る、聞く、触るなどの経験を通して、感覚の働きを豊かにする。

(イ) 内容

- ① 安全で活動しやすい環境での探索活動等を通して、見る、聞く、触れる、嗅ぐ、味わうなどの感覚の働きを豊かにする。
- ② 玩具、絵本、遊具などに興味をもち、それらを使った遊びを楽しむ。
- ③ 身の回りの物に触れる中で、形、色、大きさ、量などの物の性質や仕組みに気付く。
- ④ 自分の物と人の物の区別や、場所的感覚など、環境を捉える感覚が育つ。
- ⑤ 身近な生き物に気付き、親しみをもつ。
- ⑥ 近隣の生活や季節の行事などに興味や関心をもつ。

(ウ) 内容の取扱い

上記の取扱いに当たっては、次の事項に留意する必要がある。

- ① 玩具などは、音質、形、色、大きさなど子どもの発達状態に応じて適切なものを選び、遊びを通して感覚の発達が促されるように工夫すること。
- ② 身近な生き物との関わりについては、子どもが命を感じ、生命の尊さに気付く経験へとつながるものであることから、そうした気付きを促すような関わりとなるようにすること。
- ③ 地域の生活や季節の行事などに触れる際には、社会とのつながりや地域社会の文化への気付きにつながるものとなることが望ましいこと。その際、保育所内外の行事や地域の人々との触れ合いなどを通して行うこと等も考慮

すること。

エ 言葉の獲得に関する領域「言葉」

経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。

(ア) ねらい

- ① 言葉遊びや言葉で表現する楽しさを感じる。
- ② 人の言葉や話などを聞き、自分でも思ったことを伝えようとする。
- ③ 絵本や物語等に親しむとともに、言葉のやり取りを通じて身近な人と気持ちを通わせる。

(イ) 内容

- ① 保育士等の応答的な関わりや話しかけにより、自ら言葉を使おうとする。
- ② 生活に必要な簡単な言葉に気付き、聞き分ける。
- ③ 親しみをもって日常の挨拶に応じる。
- ④ 絵本や紙芝居を楽しみ、簡単な言葉を繰り返したり、模倣をしたりして遊ぶ。
- ⑤ 保育士等とごっこ遊びをする中で、言葉のやり取りを楽しむ。
- ⑥ 保育士等を仲立ちとして、生活や遊びの中で友達との言葉のやり取りを楽しむ。
- ⑦ 保育士等や友達の言葉や話に興味や関心をもって、聞いたり、話したりする。

(ウ) 内容の取扱い

上記の取扱いに当たっては、次の事項に留意する必要がある。

- ① 身近な人に親しみをもって接し、自分の感情などを伝え、それに相手が応答し、その言葉を聞くことを通して、次第に言葉が獲得されていくものであることを考慮して、楽しい雰囲気の中で保育士等との言葉のやり取りができるようにすること。
- ② 子どもが自分の思いを言葉で伝えるとともに、他の子どもの話などを聞くことを通して、次第に話を理解し、言葉による伝え合いができるようになるよう、気持ちや経験等の言語化を行うことを援助するなど、子ども同士の関わりの仲立ちを行うようにすること。
- ③ この時期は、片言から、二語文、ごっこ遊びでのやり取りができる程度へと、大きく言葉の習得が進む時期であることから、それぞれの子どもの発達の状況に応じて、遊びや関わりの工夫など、保育の内容を適切に展開することが必要であること。

オ 感性と表現に関する領域「表現」

感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。

(ア) ねらい

- ① 身体の諸感覚の経験を豊かにし、様々な感覚を味わう。
- ② 感じたことや考えたことなどを自分なりに表現しようとする。
- ③ 生活や遊びの様々な体験を通して、イメージや感性が豊かになる。

(イ) 内容

- ① 水、砂、土、紙、粘土など様々な素材に触れて楽しむ。
- ② 音楽、リズムやそれに合わせた体の動きを楽しむ。
- ③ 生活の中で様々な音、形、色、手触り、動き、味、香りなどに気付いたり、感じたりして楽しむ。
- ④ 歌を歌ったり、簡単な手遊びや全身を使う遊びを楽しんだりする。
- ⑤ 保育士等からの話や、生活や遊びの中での出来事を通して、イメージを豊かにする。
- ⑥ 生活や遊びの中で、興味のあることや経験したことなどを自分なりに表現する。

(ウ) 内容の取扱い

上記の取扱いに当たっては、次の事項に留意する必要がある。

- ① 子どもの表現は、遊びや生活の様々な場面で表出されているものであることから、それらを積極的に受け止め、様々な表現の仕方や感性を豊かにする経験となるようにすること。
- ② 子どもが試行錯誤しながら様々な表現を楽しむことや、自分の力でやり遂げる充実感などに気付くよう、温かく見守るとともに、適切に援助を行うようにすること。
- ③ 様々な感情の表現等を通じて、子どもが自分の感情や気持ちに気付くようになる時期であることに鑑み、受容的な関わりの中で自信をもって表現をすることや、諦めずに続けた後の達成感等を感じられるような経験が蓄積されるようにすること。
- ④ 身近な自然や身の回りの事物に関わる中で、発見や心が動く経験が得られるよう、諸感覚を働かせることを楽しむ遊びや素材を用意するなど保育の環境を整えること。

(3) 保育の実施に関わる配慮事項

ア 特に感染症にかかりやすい時期であるので、体の状態、機嫌、食欲などの日常の状態の観察を十分に行うとともに、適切な判断に基づく保健的な対応を心がける。

- イ 探索活動が十分できるように、事故防止に努めながら活動しやすい環境を整え、全身を使う遊びなど様々な遊びを取り入れる。
- ウ 自我が形成され、子どもが自分の感情や気持ちに気付くようになる重要な時期であることに鑑み、情緒の安定を図りながら、子どもの自発的な活動を尊重するとともに促していく。
- エ 担当の保育士が替わる場合には、子どものそれまでの経験や発達過程に留意し、職員間で協力して対応する。

3 3歳以上児の保育に関するねらい及び内容

(1) 基本的事項

この時期は運動機能が発達し、基本的な動作が一通りできるようになるとともに、基本的な生活習慣もほぼ自立できるようになる。話し言葉の基礎ができ、日常生活の言葉のやりとりが徐々に盛んになり、知的興味や関心も高まってくる。仲間と遊び、仲間の中の一人という自覚が生じ、集団的な遊びや協同的な活動も見られるようになる。これらの発達の特徴を踏まえて、この時期の保育においては、個の成長と集団としての活動の充実が図られるようにする。

ア 心身の健康に関する領域「健康」

健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う。

(ア) ねらい

- ① 明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。
- ② 自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。
- ③ 健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する。

(イ) 内容

- ① 保育士等や友達と触れ合い、安定感をもって行動する。
- ② いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。
- ③ 進んで戸外で遊ぶ。
- ④ 様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。
- ⑤ 保育士等や友達と食べることを楽しみ、食べ物への興味や関心をもつ。
- ⑥ 健康な生活のリズムを身に付ける。
- ⑦ 身の回りを清潔にし、衣服の着脱、食事、排泄などの生活に必要な活動を自分でする。
- ⑧ 保育所における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら見通しをもって行動する。
- ⑨ 自分の健康に関心をもち、病気の予防などに必要な活動を進んで行う。

- ⑩ 危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動する。

(ウ) 内容の取扱い

上記の取扱いに当たっては、次の事項に留意する必要がある。

- ① 心と体の健康は、相互に密接な関連があるものであることを踏まえ、子どもが保育士等や他の子どもとの温かい触れ合いの中で自己の存在感や充実感を味わうことなどを基盤として、しなやかな心と体の発達を促すこと。特に、十分に体を動かす気持ちよさを体験し、自ら体を動かそうとする意欲が育つようにすること。
- ② 様々な遊びの中で、子どもが興味や関心、能力に応じて全身を使って活動することにより、体を動かす楽しさを味わい、自分の体を大切にしようとする気持ちが育つようにすること。その際、多様な動きを経験する中で、体の動きを調整するようにすること。
- ③ 自然の中で伸び伸びと体を動かして遊ぶことにより、体の諸機能の発達が促されることに留意し、子どもの興味や関心が戸外にも向くようにすること。その際、子どもの動線に配慮した園庭や遊具の配置などを工夫すること。
- ④ 健康な心と体を育てるためには食育を通じた望ましい食習慣の形成が大切であることを踏まえ、子どもの食生活の実情に配慮し、和やかな雰囲気の中で保育士等や他の子どもと食べる喜びや楽しさを味わったり、様々な食べ物への興味や関心をもったりするなどし、食の大切さに気付き、進んで食べようとする気持ちが育つようにすること。
- ⑤ 基本的な生活習慣の形成に当たっては、家庭での生活経験に配慮し、子どもの自立心を育て、子どもが他の子どもと関わりながら主体的な活動を展開する中で、生活に必要な習慣を身に付け、次第に見通しをもって行動できるようにすること。
- ⑥ 安全に関する指導に当たっては、情緒の安定を図り、遊びを通して安全についての構えを身に付け、危険な場所や事物などが分かり、安全についての理解を深めるようにすること。また、交通安全の習慣を身に付けるようにするとともに、避難訓練などを通して、災害などの緊急時に適切な行動がとれるようにすること。

イ 人との関わりに関する領域「人間関係」

他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う。

(ア) ねらい

- ① 保育所の生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。
- ② 身近な人と親しみ、関わりを深め、工夫したり、協力したりして一緒に活

動する楽しさを味わい、愛情や信頼感をもつ。

③ 社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。

(イ) 内容

- ① 保育士等や友達と共に過ごすことの喜びを味わう。
- ② 自分で考え、自分で行動する。
- ③ 自分でできることは自分でする。
- ④ いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。
- ⑤ 友達と積極的に関わりながら喜びや悲しみを共感し合う。
- ⑥ 自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。
- ⑦ 友達のよさに気付き、一緒に活動する楽しさを味わう。
- ⑧ 友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見だし、工夫したり、協力したりなどする。
- ⑨ よいことや悪いことがあることに気付き、考えながら行動する。
- ⑩ 友達との関わりを深め、思いやりをもつ。
- ⑪ 友達と楽しく生活する中でできまりの大切さに気付き、守ろうとする。
- ⑫ 共同の遊具や用具を大切にし、皆で使う。
- ⑬ 高齢者をはじめ地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもつ。

(ウ) 内容の取扱い

上記の取扱いに当たっては、次の事項に留意する必要がある。

- ① 保育士等との信頼関係に支えられて自分自身の生活を確立していくことが人と関わる基盤となることを考慮し、子どもが自ら周囲に働き掛けることにより多様な感情を体験し、試行錯誤しながら諦めずにやり遂げることの達成感や、前向きな見通しをもって自分の力で行うことの充実感を味わうことができるよう、子どもの行動を見守りながら適切な援助を行うようにすること。
- ② 一人一人を生かした集団を形成しながら人と関わる力を育てていくようにすること。その際、集団の生活の中で、子どもが自己を発揮し、保育士等や他の子どもに認められる体験をし、自分のよさや特徴に気付き、自信をもって行動できるようにすること。
- ③ 子どもが互いに関わりを深め、協同して遊ぶようになるため、自ら行動する力を育てるとともに、他の子どもと試行錯誤しながら活動を展開する楽しさや共通の目的が実現する喜びを味わうことができるようにすること。
- ④ 道徳性の芽生えを培うに当たっては、基本的な生活習慣の形成を図るとともに、子どもが他の子どもとの関わりの中で他人の存在に気付き、相手を尊重する気持ちをもって行動できるようにし、また、自然や身近な動植物に親しむことなどを通して豊かな心情が育つようにすること。特に、人に対する

信頼感や思いやりの気持ちは、葛藤やつまずきをも体験し、それらを乗り越えることにより次第に芽生えてくることに配慮すること。

- ⑤ 集団の生活を通して、子どもが人との関わりを深め、規範意識の芽生えが培われることを考慮し、子どもが保育士等との信頼関係に支えられて自己を発揮する中で、互いに思いを主張し、折り合いを付ける体験をし、きまりの必要性などに気付き、自分の気持ちを調整する力が育つようにすること。
- ⑥ 高齢者をはじめ地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人と触れ合い、自分の感情や意志を表現しながら共に楽しみ、共感し合う体験を通して、これらの人々などに親しみをもち、人と関わることの楽しさや人の役に立つ喜びを味わうことができるようにすること。また、生活を通して親や祖父母などの家族の愛情に気付き、家族を大切にしようとする気持ちが育つようにすること。

ウ 身近な環境との関わりに関する領域「環境」

周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。

(ア) ねらい

- ① 身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。
- ② 身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。
- ③ 身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。

(イ) 内容

- ① 自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。
- ② 生活の中で、様々な物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心をもつ。
- ③ 季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く。
- ④ 自然などの身近な事象に関心をもち、取り入れて遊ぶ。
- ⑤ 身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気付き、いたわったり、大切にしたりする。
- ⑥ 日常生活の中で、我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむ。
- ⑦ 身近な物を大切にする。
- ⑧ 身近な物や遊具に興味をもって関わり、自分なりに比べたり、関連付けたりしながら考えたり、試したりして工夫して遊ぶ。
- ⑨ 日常生活の中で数量や図形などに関心をもつ。
- ⑩ 日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心をもつ。
- ⑪ 生活に関係の深い情報や施設などに関心をもつ。
- ⑫ 保育所内外の行事において国旗に親しむ。

(ウ) 内容の取扱い

上記の取扱いに当たっては、次の事項に留意する必要がある。

- ① 子どもが、遊びの中で周囲の環境と関わり、次第に周囲の世界に好奇心を抱き、その意味や操作の仕方に関心をもち、物事の法則性に気付き、自分なりに考えることができるようになる過程を大切にすること。また、他の子どもの考えなどに触れて新しい考えを生み出す喜びや楽しさを味わい、自分の考えをよりよいものにしようとする気持ちが育つようにすること。
- ② 幼児期において自然のもつ意味は大きく、自然の大きさ、美しさ、不思議さなどに直接触れる体験を通して、子どもの心が安らぎ、豊かな感情、好奇心、思考力、表現力の基礎が培われることを踏まえ、子どもが自然との関わりを深めることができるよう工夫すること。
- ③ 身近な事象や動植物に対する感動を伝え合い、共感し合うことなどを通して自分から関わろうとする意欲を育てるとともに、様々な関わり方を通してそれらに対する親しみや畏敬の念、生命を大切にすること、公共心、探究心などが養われるようにすること。
- ④ 文化や伝統に親しむ際には、正月や節句など我が国の伝統的な行事、国歌、唱歌、わらべうたや我が国の伝統的な遊びに親しんだり、異なる文化に触れる活動に親しんだりすることを通じて、社会とのつながりの意識や国際理解の意識の芽生えなどが養われるようにすること。
- ⑤ 数量や文字などに関しては、日常生活の中で子ども自身の必要感に基づく体験を大切に、数量や文字などに関する興味や関心、感覚が養われるようにすること。

エ 言葉の獲得に関する領域「言葉」

経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。

(ア) ねらい

- ① 自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。
- ② 人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。
- ③ 日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感覚を豊かにし、保育士等や友達と心を通わせる。

(イ) 内容

- ① 保育士等や友達の言葉や話に興味や関心をもち、親しみをもって聞いたり、話したりする。
- ② したり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりなどしたことを自分なり

に言葉で表現する。

- ③ したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、分からないことを尋ねたりする。
- ④ 人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す。
- ⑤ 生活の中で必要な言葉が分かり、使う。
- ⑥ 親しみをもって日常の挨拶をする。
- ⑦ 生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付く。
- ⑧ いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする。
- ⑨ 絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像をする楽しさを味わう。
- ⑩ 日常生活の中で、文字などで伝える楽しさを味わう。

(ウ) 内容の取扱い

上記の取扱いに当たっては、次の事項に留意する必要がある。

- ① 言葉は、身近な人に親しみをもって接し、自分の感情や意志などを伝え、それに相手が応答し、その言葉を聞くことを通して次第に獲得されていくものであることを考慮して、子どもが保育士等や他の子どもと関わることにより心を動かされるような体験をし、言葉を交わす喜びを味わえるようにすること。
- ② 子どもが自分の思いを言葉で伝えるとともに、保育士等や他の子どもなどの話を興味をもって注意して聞くことを通して次第に話を理解するようになっていき、言葉による伝え合いができるようにすること。
- ③ 絵本や物語などで、その内容と自分の経験とを結び付けたり、想像を巡らせたりするなど、楽しみを十分に味わうことによって、次第に豊かなイメージをもち、言葉に対する感覚が養われるようにすること。
- ④ 子どもが生活の中で、言葉の響きやリズム、新しい言葉や表現などに触れ、これらを使う楽しさを味わえるようにすること。その際、絵本や物語に親しんだり、言葉遊びなどをしたりすることを通して、言葉が豊かになるようにすること。
- ⑤ 子どもが日常生活の中で、文字などを使いながら思ったことや考えたことを伝える喜びや楽しさを味わい、文字に対する興味や関心をもつようにすること。

オ 感性と表現に関する領域「表現」

感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。

(ア) ねらい

- ① いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。
- ② 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。

③ 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。

(イ) 内容

- ① 生活の中で様々な音、形、色、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しむ。
- ② 生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。
- ③ 様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう。
- ④ 感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりなどする。
- ⑤ いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。
- ⑥ 音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう。
- ⑦ かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりなどする。
- ⑧ 自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう。

(ウ) 内容の取扱い

上記の取扱いに当たっては、次の事項に留意する必要がある。

- ① 豊かな感性は、身近な環境と十分に関わる中で美しいもの、優れたもの、心を動かす出来事などに出会い、そこから得た感動を他の子どもや保育士等と共有し、様々な表現することなどを通して養われるようにすること。その際、風の音や雨の音、身近にある草や花の形や色など自然の中にある音、形、色などに気付くようにすること。
- ② 子どもの自己表現は素朴な形で行われることが多いので、保育士等はそのような表現を受容し、子ども自身の表現しようとする意欲を受け止めて、子どもが生活の中で子どもらしい様々な表現を楽しむことができるようにすること。
- ③ 生活経験や発達に応じ、自ら様々な表現を楽しみ、表現する意欲を十分に発揮させることができるように、遊具や用具などを整えたり、様々な素材や表現の仕方に親しんだり、他の子どもの表現に触れられるよう配慮したりし、表現する過程を大切に自己表現を楽しめるように工夫すること。

(3) 保育の実施に関わる配慮事項

ア 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が、ねらい及び内容に基づく活動全体を通して資質・能力が育まれている子どもの小学校就学時の具体的な姿であることを踏まえ、指導を行う際には適宜考慮する。

イ 子どもの発達や成長の援助をねらいとした活動の時間については、意識的に保育の計画等において位置付けて、実施することが重要である。なお、そのような活動の時間については、保護者の就労状況等に応じて子どもが園で過ごす時間が

それぞれ異なることに留意して設定する。

ウ 特に必要な場合には、各領域に示すねらいの趣旨に基づいて、具体的な内容を工夫し、それに加えても差し支えないが、その場合には、保育所保育に関する基本原則を逸脱しないように慎重に配慮する必要がある。

4 保育の実施に関して留意すべき事項

(1) 保育全般に関わる配慮事項

ア 子どもの心身の発達及び活動の実態などの個人差を踏まえるとともに、一人一人の子どもの気持ちを受け止め、援助する。

イ 子どもの健康は、生理的・身体的な育ちとともに、自主性や社会性、豊かな感性の育ちとがあいまってもらたされることに留意する。

ウ 子どもが自ら周囲に働きかけ、試行錯誤しつつ自分の力で行う活動を見守りながら、適切に援助する。

エ 子どもの入園時の保育に当たっては、できるだけ個別に対応し、子どもが安定感を得て、次第に園の生活に慣れていくようにするとともに、すでに入園している子どもに不安や動揺を与えないようにする。

オ 子どもの国籍や文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるようにする。

カ 子どもの性差や個人差にも留意しつつ、性別などによる固定的な意識を植え付けることがないようにする。

(2) 小学校との連携

子どもの生活や発達の連続性を踏まえ、保育内容を工夫するとともに、園児と小学校の児童との交流、職員同士の交流、情報共有や相互理解など小学校との積極的な連携を図るようにすることが大切である。

平成21年度から、在籍する園児全員の「保育所児童保育要録」を子どもの育ちを支える資料として、小学校へ送付することが義務付けられた。一人一人がどのような保育のもと、どのような育ちをしてきたのかを保育所児童保育要録を送付することにより、園児が安心して小学校生活をスタートできるようにしていくことが必要である。

さらに、犬山市には子ども未来センターがあり、保育士と小学校教諭対象の様々な研修や情報交換等を行い、未来園と小学校との連携を深める役割を担っている。

(3) 家庭及び地域社会との連携

子どもの生活の連続性を踏まえ、家庭及び地域社会と連携して保育が展開されるように配慮する。その際、家庭や地域の機関及び団体の協力を得て、地域の自

然、高齢者や異年齢の子ども等を含む人材、行事、施設等の地域の資源を積極的に活用し、豊かな生活体験をはじめ保育内容の充実が図られるよう配慮する。

第3章 健康及び安全

子どもの生命と心の安定が保たれ、健やかな生活が確立されることは保育の基本である。そのために、一人一人の子どもの健康状態、発育、発達状態に応じて、子どもの心身の健康の保持増進を図り、危険な状態の回避等に努める。

1 子どもの健康支援

(1) 子どもの健康状態並びに発育及び発達状態の把握

子どもの心身の状態を把握したうえで保育を行うため、登園時には、保護者から情報を聞き、一人一人の子どもの健康状態を観察する。園医による内科検診や歯科検診も行っている。何らかの疾病等が疑われる症状が認められる場合は、保護者にその状態を伝え、適切な対応についての情報を知らせるようにする。

園では定期的に身体検査等を行い、子どもの発育状態を把握する。発達状態については、子どもの日常の言動や生活等の状態の丁寧な観察を通して把握する。

また、「危機管理マニュアル」の虐待防止対策に基づき、日々の子どもの身体状態、情緒面や行動、養育の状態、保護者の様子などをきめ細かく観察し、不適切な養育、虐待への早期発見に努める。

養育が不適切な場合は、子ども未来課児童担当、保健師、犬山市民生委員児童委員、主任児童委員など関係機関との連携を図り、民生委員の見守りや保健師による家庭訪問、子育て指導を保護者に対して継続して行う。

(2) 健康増進

「保健計画」に基づき、嘱託医による定期的な健康診断などを行い、その結果について記録するとともに保護者に伝え、子どもの健康状態について、園と家庭で共有する。

(3) 疾病等への対応

疾病、感染症については、「危機管理マニュアル」の感染症対策に基づき、発生予防に努め、病後児保育担当看護師との連携を図り、保健だより等の情報を発信し適切に対応する。また感染症が発生した場合は子ども未来園の対応方法について、嘱託医、子ども未来課、保健センター等に連絡をし、その指示に従うとともに、保護者への周知を図り、園内、家庭、地域への拡大を防止する。

傷害が起きた場合は、保護者と連絡を取り、嘱託医や子どものかかりつけ医等と相談し、適切な処置を行うとともに、全職員間で「原因」と「対応策」を検証

し、再発防止に努める。

アレルギー疾患を有する子どもの保育については、保護者と連携し、医師の診断及び指示に基づき適切な保育を行う。また、食物アレルギーに関しては、「危機管理マニュアル」のアレルギー対策に基づき対応する。

2 食育の推進

乳幼児期における望ましい食習慣の定着及び食を通じた人間性の形成、家族関係づくりによる心身の健全育成を図るため、食に関する取り組みを積極的に進めていく。乳幼児期にふさわしい食生活が展開され、適切な援助が行なわれるよう、食事の提供を含む食育計画「犬山市食育カリキュラム」に基づいて行う。

子どもが自らの感覚や体験を通して、自然の恵みとしての食材や調理する人への感謝の気持ちが育つように、連携して対応していく。

3 環境及び衛生管理並びに安全管理

保育中の事故を防ぐため、「危機管理マニュアル」の事故対策及び「安全点検チェックリスト」に基づき、日ごろから園の危険箇所について、全職員が事前に把握するとともに、専門業者と協力し、より詳細な定期点検を実施し、不具合の改善を図る。

(1) 環境及び衛生管理

ア 施設の温度、湿度、換気、採光、音などの環境を常に適切な状態に保持するとともに、施設内外の設備及び用具などの衛生管理に努めること。

イ 施設内外の適切な環境の維持に努めるとともに、子ども及び全職員が清潔を保つようにすること。また、職員は衛生知識の向上に努めること。

子ども達が心地よく過ごすことができるよう、園内の各部屋、調理室、トイレ、園庭、砂場など、常に清潔に保つことができるよう、日頃から清掃や消毒等を行うことが大切である。特に低年齢児においては、直接口に触れることも多い玩具は、日々状態を確認し、衛生管理を行う。

(2) 事故防止及び安全対策

睡眠中、プール活動、水遊び中、食事中では、重大事故が発生しやすいことを踏まえ、子どもの主体的な活動を大切にしながら、施設内外の環境の配慮や、指導の工夫を行ったり、必要な対策を講じたりする。不審者への対応は、「危機管理マニュアル」の不審者対策に基づき、職員間で確認し訓練を実施する。

4 災害への備え

子ども未来園では、子ども一人一人に加え、集団の子どもの「安全」を視野に入れた活動に取り組み、子ども自ら「安全」に関する知識と技術を身に付けられるようにする。

(1) 施設・設備等の安全確保

防火設備、避難経路等の安全性が確保されるよう、定期的にこれらの安全点検を行う。また、備品、遊具等の配置、保管を適切に行い、日頃から、安全環境の整備に努める。

(2) 災害発生時の対応体制及び避難への備え

地震・火災・河川氾濫などの災害発生に備え、「危機管理マニュアル」の災害対策及び各園の「避難訓練計画」に基づき、定期的に訓練を実施する。

(3) 地域の関係機関等との連携

災害発生時に備え、保護者には「犬山市学校メール」「犬山市あんしんメール」への登録を推進するとともに、日頃から、保護者との密接な連携に努め、連絡体制や引き渡し方法等について確認しておくようにする。また、近隣の住民、警察、消防署等との連携を図り、協力体制が得られるように努める。

第4章 子育て支援

1 子ども未来園における子育て支援に関する基本的事項

(1) 園の特性を生かした子育て支援

保護者に対する子育て支援を行う際には、各地域や家庭の実態等を踏まえるとともに、保護者が園に求める期待や意向等を理解し、子どもの変化や成長を保護者に伝え、喜びを共感できるように心がけ、保護者と関わっていく。様々な機会を捉えて保護者に子どもの成長を具体的に知らせながら、保護者自身が主体的に子育てに関わり、自信を持って子育てが楽しいと感じることができるよう支えていく。

そのために保育者は、保護者が抱えている子育ての問題や課題に対して、一人一人の保護者を尊重し、保護者自身が自ら考え解決策を生み出していけるよう、保育に関する専門的知識や技術を生かし、適切な支援をすることが大切である。

(2) 子育て支援に関して留意すべき事項

地域の関係機関等との連携及び協働を図り、園全体の体制構築に努める。また、子どもの利益に反しない限りにおいて、保護者や子どものプライバシーを保護し、知り得た事柄の秘密を保持する。

2 園を利用している保護者に対する子育て支援

(1) 保護者との相互理解

子どもの日々の様子をたよりやメール等、様々な形で伝達し、未来園の保育の意図の説明を通じて、保護者との相互理解を図る。また保護者の状況を配慮した上で、保育の活動に対する参加を促すようにする。

(2) 保護者の状況に配慮した個別の支援

障害など特別な配慮を必要とする子どもの保育は、一人一人の子どもの発達過程や障害の状態を把握し、適切な環境の下で、障害の有無によって分け隔てられることなく、生活や遊びを通して互いに成長できるように保育していくことが大切である。子どもに障害や発達上の問題が見られる場合や、外国籍家庭など、特別な配慮を必要とする家庭の場合には、子ども未来課、保健センターや未来センターなどの関係機関と連携及び協力を図り、保護者に対する個別の支援を行う。全ての子どもが安心して生活できる保育環境となるよう、子どもの状況に応じた配慮をし、個別に応じた関わりと集団の中の一員としての関わりの両面を大切に

しながら保育していく。また、保護者の気持ちを受け止め、保護者と保育者が一緒に子育てをしていこうとする体制を作ることが大切である。外国籍家庭など、特別な配慮を必要とする家庭の場合には、状況等に応じて個別の支援を行うよう努める。

(3) 不適切な養育等が疑われる家庭の支援

保護者の育児不安等には、保護者の希望に応じて個別の支援を行う。不適切な養育等が疑われる場合には、子ども未来課や関係機関と連携し、要保護児童対策協議会で検討し、適切な対応を図るようにする。また虐待が疑われる場合には、速やかに子ども未来課に通告し、要保護児童対策協議会など関係機関等と連携及び協力して取り組む。

3 地域の保護者等に対する子育て支援

(1) 地域に開かれた子育て支援

地域の保護者等に対して、望ましい子育ての知識や情報を伝え、地域との関係づくりに努める中で、育児における様々な問題等に対し、子ども未来園が所在する地域の特徴や園自体の特徴を踏まえて支援を行う。また、地域の関係機関等との積極的な連携及び協働を図るとともに、子育て支援に関する地域の人材と積極的に連携を図っていく。

(2) 協力体制及び関係機関との連携

園内の協力体制は必要不可欠なもので、すべての職員が協力できるように体制を整えることが大切である。また、保健センター等地域における関係機関、家庭や地域社会との協力体制も必要であり、愛知県一宮児童相談センター、愛知県医療療育総合センター等の専門機関と連携し、適切な支援をしていくようにする。

犬山市では、園から小中学校まで、同じ視点で活用できる共通の個別支援計画書「あゆみ」を保護者とともに作成し、子どもが抱える生活のしづらさや人とのかかわりの難しさなどに応じた支援が、継続的に行えるようにしている。長期的な視点で、子どもの自立や社会参加に向け、学年が変わっても対応が変わらず継続的で効果的な支援ができるようにする。

第5章 職員の資質向上

子ども未来園は、子どもの生涯にわたる人間形成にとって極めて重要な時期に、養護・教育に深く関わる大切な役割を担っている。これを踏まえ、質の高い保育を展開するため、絶えず、一人一人の職員についての資質向上及び職員全体の専門性の向上を図るよう努める。

1 職員の資質向上に関する基本的事項

(1) 園の職員に求められる専門性

子どもの最善の利益を考慮し、人権に配慮した保育を行うためには、職員一人一人の倫理観、人間性並びに園の職員としての職務及び責任の理解と自覚が基盤となる。各職員は、自己評価に基づく課題等を踏まえ、園内外の研修等を通じて、保育士・看護師・調理員・栄養士等、それぞれの職務内容に応じた専門性を高めるため、必要な知識及び技術の修得、維持及び向上に努める。

(2) 保育の質の向上に向けた組織的な取組

未来園においては、保育の内容等に関する自己評価等を通じて把握した、保育の質の向上に向けた課題に組織的に対応するため、保育内容の改善や保育者等の役割分担の見直し等に取り組むとともに、それぞれの職位や職務内容等に応じて、各職員が必要な知識及び技能を身に付けられるよう努める。

2 園長の責務

(1) 園長の責務と専門性の向上

園長は園の役割や社会的責任を遂行するために、法令等を守り、園を取り巻く社会情勢等を踏まえ、園長としての専門性等の向上に努め、保育の質及び職員の専門性向上のために必要な環境の確保に努める。

(2) 職員の研修機会の確保等

園長は、全体的な計画や、各職員の研修の必要性を踏まえ、体系的・計画的な研修機会を確保するとともに、職員の勤務体制の工夫により、職員が計画的に研修等に参加し、その専門性の向上が図られるように努めていく。

3 職員の研修等

(1) 職場における研修

研修やカンファレンス(事例検討や協議など)を通して確認し、話し合う中で、取り組みの結果や園の課題について共通認識を深めていく。また、職員の協働性を高めながら、課題意識を持って次の保育の計画に活かしていくことや、園の組織としての機能を高めていくことが重要である。

園内研修は、保育者が自園の課題を見つけ、共に学び合いながら解決する方法を考えていく。そのため、各園でそれぞれの状況に応じて、効果的な研修方法で取り組むようにする。

(2) 外部研修の活用

各園における保育の課題への的確な対応や、保育者等の専門性の向上を図るためには、職場内での研修に加え、関係機関等による同じような保育経験やキャリアを積んだ者同士が、自身や自園における課題の共有、悩みの相談、専門的な知識を学び合える外部研修の参加機会を活用する。

4 研修の実施体制等

(1) 体系的な研修計画の作成

未来園の職員として、子どもの保育及び保護者に対する指導を専門的立場から行うことができるよう、知識及び技術を修得し、維持向上に努める。また、保育課題や各職員のキャリアパス等を見据えて、初任者から管理職員までの職位や職務内容等を踏まえ、保育者の研修計画を作成する。

(2) 組織内での研修成果の活用

外部研修に参加する職員は、自らの専門性の向上を図るとともに、園における保育の課題を理解し、その解決を実践できる力を身に付けることが重要である。また、研修で得た知識及び技能を他の職員と共有することにより、園全体としての保育実践の質及び専門性の向上につなげていくことが求められる。

(3) 研修の実施に関する留意事項

園長は、園全体としての保育実践の質及び専門性の向上のために、研修の受講は特定の職員に偏ることなく行われるよう配慮する。また、研修を修了した職員が、そこで得た内容等を日々の保育に有効に生かすことができるようにすることも必要である。

犬山市カリキュラム 一覧表

子ども未来園

保育理念		・保育者の温かい人間性で保育を展開し、豊かな心と丈夫な体でよく遊ぶ子どもに育てる。							
保育方針		保育所の役割		・児童福祉法に基づき、保育を必要とする子どもの保育を行い、健全な心身の発達を図る。 ・保育に関する専門性を有する職員が、養護及び教育を一体的に行う。保護者及び地域の子育て支援を行う。					
保育目標		・十分に養護の行き届いた環境の下に、くつろいだ雰囲気の中で子どもの様々な欲求を満たし、生命の保持及び情緒の安定を図る。 ・健康、安全など生活に必要な基本的な習慣や態度を養い、心身の健康の基礎を培う。 ・人との関わりの中で、人に対する愛情と信頼感、そして人権を大切にすることを育てるとともに、自主、自立及び協調の態度を養い、道徳性の芽生えを培う。 ・生命、自然及び社会の事象についての興味や関心を育て、それらに対する豊かな心情や思考力の芽生えを培う。 ・生活の中で、言葉の興味や関心を育て、話したり、聞いたり、相手の話を理解しようとするなど、言葉の豊かさを養う。 ・様々な体験を通して、豊かな感性や表現力を育み、創造性の芽生えを培う。							
保育の方法		保育者の役割		保育の環境		・人的環境や物的環境、自然や社会の事象などがあり、それらが相互に関連し合い、子どもの生活が豊かなものとなるよう、計画的に環境を構成し、工夫して保育する。			
社会的責任		人権尊重		・子どもの人権に十分配慮するとともに、子ども一人一人の人格を尊重して保育を行う。					
		説明責任		・地域社会との交流や連携を図り、保護者や地域社会に、当園の保育内容を適切に説明するよう努める。					
		情報保護 苦情処理・解決		・入園している子どもなどの個人情報適切に取り扱う。 ・保護者の苦情などに対し、その解決を図るよう努める。 ・苦情解決責任者である園長のもとに第三者委員を含めた苦情処理委員会を設置する。					
子どもの保育目標		0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児		
		・保育者の愛情豊かで応答的な関わりを通じて、一人一人の生活リズムを整え、基本的な生活習慣を養う。	・安心できる保育者との関係の中で、自己主張し、自分でしようとする気持ちが芽生える。	・安心できる保育者との関係の中で、自分の思いを言葉で伝えようしたり、自分でできることを自分ですようとする。	・保育者や友達と一緒に遊ぶ中で、自分のしたいこと、言いたいことを言葉や行動で表現しつつ、集団として行動できるようになる。	・保育者や友達とのつながりを広げ、目標に向かって、一緒に活動する。	・生活や遊びの中で、一つの目標に向かい、友達と力を合わせて活動する。		
養護	生命の保持	・安心できる環境の中、一人一人がゆったりと過ごし、授乳や食事、睡眠など生活のリズムを整え、生命の保持と安全を図る。	・清潔で安全な環境を整え、安心できる保育者との関係の中で欲求を満たしていく。 ・家庭と協力しながら生活リズムを整えていく。	・子どもの行動範囲を十分に把握し、安全な環境をつくる。 ・子ども一人一人の発達を踏まえ、適切な関わりや援助をし、生理的欲求を満たしながら、生活リズムを整えていく。	・一人一人の子どもの発達を的確に把握し、適切な援助や関わりをしながら、健康で安全に過ごせるようにする。	・運動や休息のバランスを計りながら、基本的な生活習慣が身に付くようにする。	・安全で健康的な生活を送ることのできる習慣が身に付くようにする。		
	情緒の安定	・安心して過ごせるように視線を合わせたり、やさしく声をかけたり微笑みかけたり、喃語や声、表情に応えたりする。	・安定した生活を送れるよう保育者が愛情豊かに応答的に関わる。 ・自我の芽生えを受け止めながら、自分の力でやろうとする意欲を認めていく。	・安定した生活を送れるよう保育者が愛情豊かに応答的に関わる。 ・一人一人の欲求を受け止めながら、周りの友達と関わるよう仲立ちしていく。	・一人一人の子どもの気持ちを受け容れ、保育者との応答的な関わりを通して、周囲から主体として受け止められ自分を肯定する気持ちが育まれていくようにする。	・自己肯定感を高めるとともに、友達との間で自分を発揮できるように援助する。	・生活や遊びの中で、友達との話に共感したり意見を出し合ったりできるような関係づくりをしていく。		
保育の計画及び評価		保育の計画及び評価		育みたい資質・能力		幼児期の終わりまでに育ってほしい姿			
		・保育の目標を達成するために、保育方針や目標に基づき、子どもの発達過程を踏まえて、保育の内容が組織的・計画的に構成され、園生活全体を通して、総合的に展開されるよう全体的な計画を作成する。 ・犬山市カリキュラムや研修計画に基づき、各園で創意工夫を凝らしながら、計画を作成する。 ・保育者の自己評価、園の自己評価を行い、保育内容の改善を図る。		ア 豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かたり、できるようになったりする「知識及び技能の基礎」 イ 気付いたことや、できるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする「思考力、判断力、表現力等の基礎」 ウ 心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする「学びに向かう力、人間性等」		ア 健康な心と体 イ 自立心 ウ 協同性 エ 道徳性・規範意識の芽生え オ 社会生活との関わり カ 思考力の芽生え キ 自然との関わり・生命尊重 ク 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 ケ 言葉による伝え合い コ 豊かな感性と表現			
保 育 内 容									
年齢	3つの視点	0歳児	5領域	1歳児	5領域	3歳児	4歳児	5歳児	
教育	健やかに伸び伸びと育つ	・快適な環境の心地よさを感じたり、生活リズムの感覚が芽生える。 ・伸び伸びと手足を使った様々な身体活動や探索活動を楽しむ。	健康	・運動機能や指先の機能が発達し、いろいろなものに興味をもち、探索活動をする。 ・保育者の援助や関わり方を通して、少しずつ自分でしようとする気持ちをもつ。	健康	・基本的な運動機能や指先の機能が発達し、様々な動きをしようとする。 ・健康、安全な生活に必要な習慣が少しずつ身に付く。	健康	・自分の健康に関心をもち、病気の予防などに必要な活動を進んで行う。 ・自分自身の体や病気予防についての関心をもつ。 ・全身を使った遊びに取り組み、心地よさを味わう。	・自分の健康に関心をもち、病気の予防などに必要な活動を進んで行う。 ・自分たちで生活の場を整えながら見通しをもって安全に気をつけて行動する。
	身近な人と気持ちが通じ合う	・身近な人に親しみをもち、自分から関わろうとする。 ・体の動きや表情、発声等により、保育者と気持ちを通わせようとする。 ・語りかけや歌いかけ、発声や喃語等への応答を通じ、言葉の理解や発語の意欲が育つ。	人間関係	・身近な人への興味関心が広がり、真似をしたり、関わろうとする。	人間関係	・自己主張が表出される中、保育者が仲立ちとなり、友達との関わりを深める。	人間関係	・保育者や友達と一緒に過ごす中で、きまりの大切さに気づき守ろうとする。 ・友達との関わりの中で、ルールやきまりを守り、喜びや悲しみを共感し合う。	・いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。 ・友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見だし、工夫したり協力したりなどする。
	身近なものとの関わり感性が育つ	・身近なものに興味、関心をもち、自ら関わり、満足感や面白さを味わう。 ・身体の諸感覚による認識が豊かになり、表情や手足、体の動き等で表現する。	言葉	・生活の中で覚えた簡単な言葉を模倣したり繰り返したりする。 ・保育者とゆっくり関わる中で、自分の意思や欲求を指差しや身振り、言葉で表す。	言葉	・保育者を仲立ちとして、生活や遊びの中で、言葉のやりとりを楽しむ。 ・自分の意見や欲求を言葉で表現する。	言葉	・生活の中で必要な言葉が分かって、したいこと、してほしいことなどを自分なりの言葉で表現する。	・人の話を聞いたり、自分の経験したことを話す。 ・自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちを知る。
小学校との連携	一年生情報交換会 幼保小合同研修会 幼保小担任連絡会 就学児情報交換会 小中学校教師による未来園体験研修 保育所児童保育要録を小学校へ送付								
健康及び安全	子どもの健康支援	内科検診(年2回) 歯牙検診(年2回) 発育測定(各月年6回・0歳児のみ毎月) 尿検査(年1回) 保健だより・病後児の窓からの発行 給食だよりの発行 保健指導(手洗い・歯磨き・フツ化物洗口) 感染症対応 異常が認められたときの対応 アレルギーへの対応			保護者に対する支援		園だより・クラスだよりの発行 ゆずり葉通信の発行 家庭通信 犬山市学校メール(子育てほっとメール) 個人懇談会 育児相談 連絡ノートによる情報交換(未満児) 子育てステップアップ講座(年2回) わくわく音楽会(年長児) 親子ひろば 親子給食 子育て広場		
	食育の推進	安全で安心な食事の提供 発達に応じた離乳食の提供 行事食の提供 野菜の栽培や収穫 クッキングの実施 給食試食会 給食だよりの発行 給食展示			保育支援		協力体制及び関係機関との連携 (こすす園、保健センター、子ども未来センター、相談支援事業所) 指導計画及び個別的教育支援計画「あゆみ」 要保護児童対策協議会		
	環境及び衛生管理ならびに安全管理	園舎内外の清掃 樹木剪定・園庭除草 未満児玩具の洗浄・消毒 砂場消毒 職員健康診断(年1回) 職員検便(月1~2回) 園児尿検査(年1回) 業者による遊具・電気及び空調点検 不審者対応			地域における支援		育児相談 園庭開放 実習生・ボランティアの受け入れ 中学生職業体験 小中学生福祉体験		
	災害への備え	避難訓練(火災、地震)を月1回実施 消火訓練 引き渡し訓練 水害時の訓練 園舎内外の安全管理及び自主点検 消防設備点検(年2回) 災害マニュアルの作成と実施 災害用伝言ダイヤル体験 交通安全指導及び交通安全教室の実施			関係機関との連携		子ども未来センター 児童館・児童センター ファミリーサポートセンター 保健センター 幼稚園 小・中学校 愛知県一宮児童相談センター 愛知県医療療育総合センター 相談支援事業所		
職員の資質向上	園内研修 役職別研修 経験年数別研修 担当年齢別研修 特別な支援にかかわる研修 調理員研修 パート保育士研修 夏季保育者研修会 年度末保育者研修会 保育者の評価(自己評価チェックリスト) 保育所としての評価								

0歳児

子どもの保育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者の愛情豊かで応答的な関わりを通じて、一人一人の生活リズムを整え、基本的な生活習慣を養う。
----------	--

期	57日～3か月未満	3か月～6か月未満	6か月～9か月未満
子どもの発達	<ul style="list-style-type: none"> ・睡眠、目覚めを一日に何度も繰り返す。 ・空腹やおむつが汚れることなどに、不快を感じて泣く。 ・動く物を目で追ったり、音のする方に顔を向けたりする。 ・機嫌のよい時には手足を動かし、あやすと声を出したり微笑んだりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・うつ伏せにすると胸を反らせて、手で支える。 ・手でつかんだ物を、なんでも口に入れようとする。 ・あやすと声を出し、顔や手足、全身で喜びを表す。 ・「あーあー」「うーうー」などの喃語を発する。 ・離乳食が始まり、ドロドロ状の物を食べる。 ・寝返りを始める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・腹ばいで近くにあった玩具に手を伸ばしたり握ったりする。 ・舌でつぶせるような固さの物を食べられるようになる。 ・おすわりが安定し、手で伸ばして物をつかんだり持ちかえたりする。 ・盛んに「まんまんまん」などの反復喃語を言う。 ・人見知りが始まる。
健康（生活習慣）	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・個々に合わせて授乳や離乳食を進め、楽しい雰囲気の中で食事をする。 ・保育者との安定した関わりの中で、安心して眠る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な食材や味を経験しながら、食への関心を深める。 ・おむつ交換を通して、快、不快の感覚を養う。
	配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の生活リズムを大切にしながら欲求を満たし、快適に過ごせるように努める。 ・口の動きや表情を見ながら、ゆったりとした気持ちで授乳する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもと共感しながら、食事の楽しい雰囲気作りを行う。 ・あたたかなまなざしを送ったり、子守唄を歌ったりしながら、安心して眠れる環境を作る。
言葉・人間関係	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・大人の関わりに対して、手足を動かして遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・周囲から主体として受け止められる中で、自己肯定感を高める。 ・大人の語りかけや共感の言葉、わらべうたを通して、心を通わせる。
	配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・柔軟な形での担当制による保育者が、人への信頼感をもてるような関わり方をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもからのサインを見逃さず、豊かな語りかけやわらべうたを通して、心を通わせる。
表現・環境	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・安全で活動しやすい環境のもと、寝返りや腹ばいなど、体を動かすことを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安定した日課、人間関係を保障し、一人一人の気持ちを受け止めた関わり方をする。
	配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・目を合わせて表情豊かに言葉をかけ、時には玩具を用いて、見る、聴くという感覚に働きかけることを大切にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全面に注意しながらも、広い空間や斜面などで移動運動を楽しめるような環境作りを行う。
（家庭との連携）	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの様子について、連絡帳や口頭で伝え合い、共通認識をもって、成長をあたたく見守れるように話をする。 ・子どもの様子を密に伝え合う中で、信頼関係を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭と連携して、生活リズムを整えていけるようにする。 ・子ども達の言葉にならない思いを代弁して伝え合い、共通理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園でできたこと、興味があること、好きなことを具体的に伝え、成長を喜び合う。 ・家庭と連携して、家庭で2回食になってから、離乳食を進めていく。

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・身体感覚が育ち、快適な環境に心地よさを感じる。 ・伸び伸びと体を動かし、はう、歩くなどの運動をしようとする。 ・食事、睡眠等の生活のリズムの感覚が芽生える。 ・安心できる関係の下で、身近な人と共に過ごす喜びを感じる。 ・体の動きや表情、発声等により、保育士等と気持ちを通わせようとする。 ・身近な人と親しみ、関わりを深め、愛情や信頼感が芽生える。 ・身の回りのものに親しみ、様々なものに興味や関心をもつ。 ・見る、触れる、探索するなど、身近な環境に自分から関わろうとする。 ・身体の一部感覚による認識が豊かになり、表情や手足、体の動き等で表現する。
-----	---

期	9か月～12か月未満	1歳～1歳6か月未満	1歳6か月～2歳未満	
子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・手でつかんで食べる。 ・親指と人差し指でつまむ。 ・両手に物を持って叩き合わせる。 ・はいはいから、つかまり立ち、伝い歩きなど、移動運動が活発になる。 ・自分からいろいろな物に関わり、周りの物に興味や関心もち始める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・両手をコップを持って飲む。 ・離乳食がほぼ完了する。 ・一回寝になり、午後の一定時間、睡眠をとる。 ・一人歩きができる。 ・友達が遊んでいる様子に興味を示す。 ・手遊びや模倣遊びをする中で言葉を覚え、「わんわん」「ぶーぶ」などの意味のある単語を言う。 ・誘われると、おまる、便座に座る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スプーンやフォークに慣れ、最後まで自分で食べようとする。 ・友達への興味が増し、同じ遊びをする中で、物を取り合う姿が見られる。 ・要求を言葉や動作で伝えようとする。 ・排泄したとき、表情や動作で知らせる。 ・運動機能(歩く、押す、上る、下り)が発達する。 ・積み木などを積んだりする。 ・意欲的に着脱をしようとする。 	
健康(生活習慣)	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・奥歯でしっかりと咀嚼しながら、食事をする。 ・安定した日課を積み重ね、安心感や見通しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分でスプーンを持って食べようとする。 ・汗をかいたり、衣服が汚れたりしたら気持ち悪いと感じ、保育者に見守られながら着替える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分で」という意欲をもって、身の回りのことに意欲的に取り組もうとする。
	配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・奥歯でしっかりと噛む習慣が身につくような関わり方をする。 ・見通しをもつことで、意欲や自信を引き出す関わり方をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で食べたという達成感や満足感を得て、食べる喜びが十分に味わえるようにする。 ・快、不快を自分で意識できる言葉をかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安定した人的、物的環境のもと、身の回りのことを自分でやってみようという意欲や自信がもてるようにする。
言葉・人間関係	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・喃語や指差し、声、身ぶり、表情で自分の思いを表現し、意欲的に伝えようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者と一緒に絵本を見ることを楽しむ。 ・友達のそばに行ったり、手を伸ばしたりするなど、興味をもって関わろうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1～2語文を使って、思いを伝えようとする。 ・友達がしていることを模倣するなど、興味をもって関わり、一緒に遊ぶ楽しさを味わう。
	配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが伝えようとする思いを十分に受け止め、発語の意欲につながるようなやりとりを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達や興味、季節に合った絵本を選び、言葉の楽しさを十分に味わえるようにする。 ・人と関わる楽しさを十分に味わえるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達と、簡単な言葉のやりとりを楽しめるようにする。 ・人が好き、人と一緒に嬉しいと思えるような経験を、積み重ねられるようにする。
表現・環境	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・好奇心を働かせながら、探索活動を十分に行う。 ・四つんばいやつかまり立ちなど、活発に体を動かす喜びを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・五感を働かせる経験を通して、感性や手指の発達を養う。 ・様々な音を聞いて、体を揺らしたり手足を動かしたりして遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者に見守られながら、好きな遊びを見つけて楽しむ。 ・なぐり描きで伸び伸びと自分の思いを表現する喜びを味わう。
	配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発見や喜びなど、心が動く経験を大切ににする。 ・探索活動が楽しめるよう、安全な環境を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな感性が芽生えるような体験を大切ににする。 ・保育者も一緒に楽しい時間を共有し、音楽の楽しさを味わえるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・好きな遊びをじっくりと楽しめるような環境を作る。 ・子ども達の自由な発想や表現を認める。
(家庭との連携)	子育ての連携	<ul style="list-style-type: none"> ・園でできたこと、興味があること、好きなことなどを具体的に伝え、成長を喜び合う。 ・行動範囲が広がる時期のため、安全への配慮について共通理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら環境に関わろうとする子どもの姿に寄り添い見守れるように話をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己主張が強くなる時期について発達を理解したうえで、心の余裕をもって関われるように話をする。

1歳児

保育 子ども 目標の	<ul style="list-style-type: none"> ・安心できる保育者との関係の中で、自己主張し、自分でしようとする気持ちが芽生える。
------------------	---

	1歳～1歳6か月未満	1歳6か月～2歳未満
子どもの 姿	<ul style="list-style-type: none"> ・手づかみやスプーンで自分で食べようとしたり、両手でコップを持って、こぼしながらも自分で飲んだりする。 ・歩行が安定し、探索を楽しむ。 ・指差し、身ぶり、片言などで、自分の気持ちや要求を伝えようとする。 ・手遊びを楽しみ、歌やリズムに合わせて体を動かす。 ・絵本を繰り返し読んでもらうことを喜ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スプーンやコップに慣れ、こぼしながらも自分で食べる。 ・トイレに誘うと、便座に座ることに興味をもつ。 ・保育者と一緒に、絵本の内容を真似して楽しむ。 ・二語文を話すようになる。 ・一人遊びをする。 ・友達に興味をもち、ぶつかり合いも起きる。

期	1期（4～5月）	2期（6～8月）
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい環境に慣れて安心して過ごす。 ・一人一人の生活リズムに合わせて無理なく過ごす。 ・天気の良い日は戸外に出て、春の自然に触れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活リズムを整え、よく食べ、よく眠る。 ・身の回りのことを保育者と一緒に行う。 ・砂、水などの身近な自然に触れ、夏の遊びを楽しむ。
保育の 内容	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい環境に少しずつ慣れていけるように、一対一での関わりを大切に ・個々の気持ちを大切に、共感することで、子どもの気持ちに寄り添 ・子どもの片言や身振り手振りで表現する気持ちを理解し、満足感が ・得られるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちを表現するのが苦手な子もいるので、意識的に関わ ・ていく。 ・一人一人の思いを受け止め、安心できる環境の中で自己表現がで ・きるようにする。 ・衣服の着脱や排泄を保育者に手伝ってもらいながら自分でやろうと ・する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・高月齢と低月齢など少人数に分け、それぞれの発達段階に適した ・活動を充実させる。 ・戸外遊びや散歩の中で、自然や身近な物に触れ、好奇心をもつ。 ・保育者と一緒に触れ合い遊びや手遊びを楽しむ。 ・好きな絵本を見たり読んでもらったりすることを喜ぶ。 ・喃語や片言を優しく受け止めてもらい、保育者とのやりとりを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者に見守られながら一人遊びを十分に楽しむ。 ・水、砂、泥に触れ、気持ちよさや開放感を味わう。 ・友達と同じ遊びを楽しみ、親しみを感じて関わる。 ・好きな絵本を繰り返し見たり、手遊びをしたりする中で、簡単な言葉 ・の模倣を楽しむ。 ・衣服の着脱や手洗いに興味をもち、自分でやってみようとする。 ・トイレに興味をもち、便座に座る。
環境 構成・ 援助	<ul style="list-style-type: none"> ・歩行が不安定な子どもが多いので、それぞれが安全に遊べるように環境 ・を整え、特に、保育者の配置を考える。 ・個々によって、生活の様子に差があるので、一人一人のペースを見 ・極めて援助や導きをする。 ・好きな遊びが十分にできるよう、生活で安全な環境を整える。 ・子どもの要求や不安に気づき、スキンシップを十分に取る。 ・子どもの興味や発達に合わせた玩具を用意する。 ・個々の生活リズムに合わせて、無理なく生活できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体調管理や熱中症に気を付け、快適に過ごせるようにする。 ・水遊びが十分に楽しめるように、気温、体調、衛生面に十分気を付 ・ける。 ・状況を見極めて、適度な休息や水分補給をしっかりとるようにする。 ・様々な活動を通して興味をもてるように、玩具や遊具など環境を整 ・える。
（家庭 との 連携）	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳や送迎時の対話で毎日の様子を伝え、不安や疑問が解消 ・するように、保護者との信頼関係を築いていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調節しやすい衣服を準備してもらう。 ・疲れや感染症などの出やすい時期なので、食事、睡眠、健康など ・について、家庭と密に連絡を取り合っていく。

○幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	
ア 健康な心と体	カ 思考力の芽生え
イ 自立心	キ 自然との関わり・生命尊重
ウ 協同性	ク 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
エ 道徳性・規範意識の芽生え	ケ 言葉による伝え合い
オ 社会生活との関わり	コ 豊かな感性と表現

	2歳～2歳6か月未満	2歳6か月～3歳未満
子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・走る、跳ぶ、押す、引くなど、全身を使った遊びを楽しむ。 ・簡単な質問や要求に答えることができる。 ・友達と一緒にいることを喜び、名前を呼び合ったり、保育者に仲立ちをしてもらったりしながら、簡単なやりとりを楽しむ。 ・癪癪を起こし、自己主張が強くなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スプーンを持って、一人で食べる。 ・保育者に手伝ってもらいながら、着脱などの簡単な身の回りのことを自分でできるようになる。 ・保育者や友達と、ごっこ遊びや見立て遊びを楽しむ。 ・友達と関わり、玩具や場所に取り合いが起こる。 ・保育者と一緒に簡単な歌を歌おうとしたり、リズムに合わせて体を動かすことを喜んだりする。

期	3期（9～12月）	4期（1～3月）
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りのことに興味をもち、自分でやろうとする。 ・遊びや生活の中で、十分に体を動かすことを楽しむ。 ・保育者の仲立ちで、自分の思いを言葉にして、友達と関わる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な身の回りのことが自分でできるようになる。 ・冬の自然に触れ、十分に体を動かして遊ぶ。 ・言葉のやりとりや友達との触れ合いを通して、一緒に遊ぶことを楽しむ。
保育の内容	<p>養護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気候や体調に留意し、薄着の習慣を身につけて健康で快適に過ごせるようにする。 ・自分でしようとする気持ちを大切に、達成感を味わえるようにする。 ・自己主張したりトラブルが発生した際は、気持ちを受容、共感してもらって安心できるようにし、心の安定を図る。 ・子どもの表現や子ども同士の関わりを見守り、思いを汲み取って言葉を補足していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者の共感的な言葉がけや励ましにより、自己肯定感や自信が育まれる。 ・できることが増えても、子どもの甘えを十分に受け止める。
	<p>教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トイレでの排泄に少しずつ慣れる。 ・繰り返しやリズムのある言葉を覚え、使ってみようとする。 ・いろいろな素材や玩具を使って、遊びを楽しむ。 ・保育者や友達の名前を覚えて読んだり、保育者の仲立ちで他の子どもと関わりをもつようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りのことを、保育者に促されて自分でしようとする。 ・好きな遊びをじっくり楽しみ、友達と一緒に遊んだり、遊びの中で言葉のやり取りを楽しんだりする。 ・簡単なリズム遊び、ごっこ遊び、つもり遊び、見立て遊びを十分に楽しむ。 ・冬の自然に関心をもち、触れて遊ぶことを楽しむ。
環境構成・援助	<ul style="list-style-type: none"> ・動きや行動範囲に合わせて十分に体を動かすことができるよう、環境を工夫する。 ・かみつきやトラブルが予測されるので、保育者の配置を考えたり、一人一人の思いを受け止めたりしながら、安心して過ごせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から関わるができるような場所や、関心をもてるような遊具類を準備し、配置する。 ・できたことを一緒に喜び、自分でできることの楽しさを積み重ねて、自信や意欲につなげていく。
（家庭との連携）	<ul style="list-style-type: none"> ・衣服は子どもが自分で着脱しやすい物を用意してもらおう。 ・気温差があるので、体調について連絡を取り合う。 ・子ども達の自我の育ちや園、家庭での様子、関わり方を伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの1年間の成長を共に喜び合い、子育てを楽しめるようにする。 ・進級の話を通じて、子どもの育ちについて今後の見通しを伝える。

2歳児

保育 子ども 目標の	・安心できる保育者との関係の中で、自分でできることを自分でできることを自分でしようとする。	
期	1期（4～5月）	2期（6～8月）
子どもの 姿	・新入園児は、保護者と離れることや新しい環境に不安になり、泣いたり嫌がったりする子もいる。 ・進級児は新しい環境を喜んでいますが、一つ一つの行動に不安な表情を見せ、言葉や身振りなどで確かめながら安心感を得ようとする。 ・一日の流れがわかり始めると安心し、好きな玩具で遊んだり友達とのやりとりを楽しんだりしている。	・気温の差があり、疲れが出やすい時期なので、体調を崩す子もいる。 ・身の回りのことを自分でしようしたり、友達のやっていることに興味をもって、真似したりしようとする。 ・砂遊びでは、砂で型押しをしたり、見立て遊びをしたりして砂に触れることを喜び、水遊びでは、水に触れることを怖がる子と、伸び伸び遊ぶ子がいる。
ねらい	・新しい環境や保育者に慣れ、安心して過ごす。 ・好きな遊びや春の自然との触れ合いを、保育者や友達と楽しむ。	・十分に休息をとりながら、夏の過ごし方を知る。 ・保育者や友達と夏の遊びを楽しむ。 ・簡単な身の回りのことを自分からやってみようとする。 ・保育者や友達と一緒に遊ぶ中で、簡単な言葉のやりとりを楽しむ。
保育の内容 養護 教育（健康・人間関係・環境・言葉・表現）	・新しい環境や保育者に慣れて、安心して過ごせるように、子どもの気持ちに寄り添い、あたたかく関わる。 ・家庭での生活リズムを考慮しながら、一人一人に合わせて園での生活リズム作りをする。 ・保育者との信頼関係を築き、安定した関わりの中で過ごせるようにする。	・子どもと共に衛生面に気を付け、きれいにする気持ちよさが感じられるようにする。 ・一人一人の健康状態を見ながら、快適に過ごせるようにする。 ・身の回りのことを自分でしようとする気持ちを受け止め、ゆっくと見守ったり、励ましたりしながら意欲につながるようにしたりする。
	・自分のクラスやロッカー、靴箱の場所を覚えて、安心して生活の仕方を身につけていく。 ・楽しい雰囲気の中で、食事することを楽しむ。 ・少しずつ身の回りのことをやってみようとする。 ・つまんだり、穴に通したりして、指先をたくさん使った玩具遊びを楽しむ。 ・好きな遊びを見つけて、保育者や友達と楽しむ。 ・春の自然に触れ、草花を摘んだり、昆虫を探したり見たりして、身近な自然に親しむ。 ・新しい保育者や友達の名前を覚えて、いろいろな言葉を使ってみようとする。 ・季節の歌を聴いたり、歌ったり、手遊びをしたりして、リズムに合わせて体を動かしながら音楽を楽しむ。	・尿意を感じたときは、保育者に伝えたりトイレに行ったりして、便器での排泄に少しずつ慣れる。 ・友達のしている遊びに興味をもち、同じことをしようとする。 ・様々な生き物や植物に興味をもち、見つけたり触れたりして遊ぶ。 ・水遊びや砂、泥遊びなどの感触遊びを、思いきり楽しむ。 ・形や大きさを比べたり、色の違いに気付いたりして、いろいろな教材や教具に親しむ。 ・絵本や紙芝居を見たり聞いたりして、言葉や物語に親しむ。 ・自分がしてほしいことや思ったことを伝える楽しさを味わう。 ・いろいろな感触の素材に触れて、楽しむ。
援助と環境構成	・食事、挨拶、午睡などが安心してできるように、ゆっくりとした生活リズムと雰囲気作りを心がける。 ・それぞれの子どもの持ち物や場所にその子のマークを付けて、保育者が共に行動しながら、生活の仕方を知らせていく。 ・戸外では、安全に遊べるように見守ったり、場所の設定の工夫をしたりする。 ・一人一人の気持ちを受け止めていながら、安心して過ごす中で、信頼関係を築いていく。	・水遊びのときは衛生管理に気をつけて、安全に楽しく遊べるようにする。 ・感染症の情報を把握し、予防に努める。 ・友達との関わりが増える中で、気持ちと体のぶつかり合いを経験しながら、相手の思いに気付いたり、自分の思いを伝えたりすることができるように気持ちを受け止め、一緒に考えながら、橋渡しをする。 ・戸外と一緒に遊びこみながらも、気温や時間に気を配り、いつでも水分補給ができるようにしておく。
（家庭との連携）	・園での一日の様子を知らせたり、家庭での様子を聞いたりして連絡を密にし、信頼関係を築いていく。 ・環境の変化により体調を崩したり、情緒不安定になる子もいるので、家庭でもゆったりと過ごせるようにしてもらう。	・雨期や夏期の健康に気を付け、体調に変化のあるときは連絡を取り合うようにする。 ・汗をかきやすい時期なので、頭髪や爪、体などを清潔に心がけてもらう。 ・水遊びをするため、その日の健康状態を連絡ノート等で知らせ合う。 ・感染症などの病気についての情報を知らせ、症状が見られた場合は早期の対処を勧める。

○幼児期の終わりまでに育ってほしい姿		カ 思考力の芽生え
ア 健康な心と体		キ 自然との関わり・生命尊重
イ 自立心		ク 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
ウ 協同性		ケ 言葉による伝え合い
エ 道徳性・規範意識の芽生え		コ 豊かな感性と表現
オ 社会生活との関わり		
期	3期（9～12月）	4期（1～3月）
子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・友達との関わりが多くなり、一緒に遊ぶことを喜ぶが、玩具の取り合いをしたり、自分の思いを出し合ったりして、トラブルになることも多い。 ・保育者や友達と、ごっこ遊びや模倣遊びを楽しむ。 ・友達と同じ遊びを楽しみながらも、思いが違ったときに言葉で伝えられず、ぶつかることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣が身につく、身の回りのことなどできることが増えて自信をもち始めている。 ・できるようになったことが増えたことで、3歳児クラスに進級することを楽しみにしている。
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・戸外で、秋の自然や事象の変化に触れる。 ・音楽に合わせて動いたり踊ったりして、いろいろな表現を楽しむ。 ・身の回りのことを自分でしようとする。 ・生活や遊びの中で保育者に仲立ちされて、友達の気持ちにも気付いていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣が身に付き、進級に期待をもつ。 ・冬の遊びを十分に楽しみ、冬の過ごし方を知る。 ・簡単なルールのある遊びを通して、保育者や友達と一緒に楽しく遊ぶ。 ・自分のしてほしいことや思ったことを、言葉で伝えることを楽しむ。
保育の内容	養護 <ul style="list-style-type: none"> ・気温に合わせて衣服や室温の調整をし、快適に過ごして、十分な休息をとれるようにする。 ・身の回りのことを自分でしてみたい気持ちをあたたかく受け止めながら、一人一人に合わせて援助する。 ・子どもの思ったことや気付き、してほしいことなどを十分に受け止め、安心して気持ちを伝えられるような雰囲気を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体調や気温の変化に留意して、子どもの動き、表情を見ながら、こまめに衣服の調節を行い、快適に過ごせるようにする。 ・感染症予防のために保健衛生に留意し、子ども達と共に生活を作っていく。
	教育（健康・人間関係・環境・言葉・表現） <ul style="list-style-type: none"> ・走る、跳ぶ、登る、押す、引っ張るなど、全身を使った運動遊びを楽しむ。 ・保育者の仲立ちを通して、安心して友達と遊ぶことを楽しむ。 ・戸外で出かけ、木の実を見つけたり、葉の色づきに気付いたりして、秋の自然を肌で感じる。 ・パズルや積み木、ブロックなどを組み合わせたりして、細かい動きや形作りを、手指を使い集中して楽しむ。 ・保育者や友達とごっこ遊びや見立て遊びをしながら、言葉のやりとりを楽しむ。 ・保育者や友達と一緒に歌ったり、踊ったり、体を動かしたりして、身体表現を楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・寒い中でも戸外で元気に遊び、体を動かすことを楽しむ。 ・簡単なルールのある遊びに参加し、保育者の仲立ちを通して、安心して友達と遊ぶことを楽しむ。 ・冬の自然に親しみ、雪や氷などに触れながら、様々な不思議さを味わう。 ・形や大きさに気づいたり、同じ色を集めたりして、物の特徴を感じているような環境と関わる。 ・日常での出来事や挨拶、返事、してほしいことなど、言葉でのやりとりを楽しむ。 ・歌ったり踊ったりして、表現する喜びを味わう。
	援助と環境構成 <ul style="list-style-type: none"> ・友達と元気に体を動かして遊べるように、様々な遊具や遊びの場を準備し、自らやりたいと思えるものに出会えるようにする。 ・秋の自然とたくさん触れ合えるように、園庭の隅々まで探索し、発見や気付きを楽しめるようにする。 ・一人一人の気持ちに寄り添い、自分でしたいという気持ちを受け止めながら、さりげなく援助をし、できた喜びが味わえるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの思ったことや気づいてほしいことなど、十分に気持ちを受け止め、欲求を満たせるようにあたたかく関わる。 ・友達を意識しながら遊んだり、行動したりできるように見守り、自分のやりたいことを安心して意欲的に活動できるように関わる。 ・進級するクラスの環境や友達との交流を深めながら、安心して進級を心待ちにできるような関わりを心がける。 ・進級に向けた移行や保育士間の引き継ぎなどを十分に行いながら、安心感を持てるように配慮する。
（家庭との連携）	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの自分でしようとする気持ちを見守ることが大切であることを理解してもらおう。 ・動きやすく調節しやすい服装や、足のサイズに合った靴にしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・風邪などで体調を崩しやすい時期なので、睡眠やバランスの良い食事を十分にとって予防に心がけてもらおう。 ・自分でしようとするが多くなるが、できることでもやりたがらない時もあるので、子どもの気持ちを受け入れ、焦らず手助けしたり、励ましていくことの大切さを話し合うようにする。

3歳児

<p>保育者 子ども 目標の</p>	<p>・保育者や友達と一緒に遊ぶ中で、自分のしたいこと、言いたいことを言葉や行動で表現しつつ、集団として行動するようになる。</p>	
<p>期</p>	<p>1期（4～5月）</p>	<p>2期（6～8月）</p>
<p>子どもの 姿</p>	<p>・今までの生活との違いから、不安や緊張などを様々な行動で表す。 ・保育者を心のよりどころとして、自分なりのペースで生活ができるようになる。 ・新しい生活に期待感を持っているが、反面不安もあり、泣いたりする子もいる。 ・身の回りの始末は個人差があり、全てを保育者に依存している子、保育者の援助があればしようとする子など様々である。</p>	<p>・生活の仕方や流れが分かり、できることは自分でしようとする気持ちが出てくる。 ・生活に慣れてきて友達との関わりが増えてくるが、物の取り合いや自我のぶつかり合いなどにより、トラブルも多くなっていく。 ・園の遊具や玩具を介して、友達と触れ合いながら遊ぶようになってくる。 ・一緒に遊んだり生活したりする中で、保育者に親しみ信頼関係ができてくる。</p>
<p>ねらい</p>	<p>・新しい環境に慣れ、安定した気持ちで過ごす。 ・園の遊具や玩具に興味を持ち、好きな遊びを楽しむ。 ・喜んで登園し、保育者に親しみを持つ。</p>	<p>・園での生活の仕方が分かり、簡単な身の回りのことを自分でしようとする。 ・生活や遊びには決まりやルールがあることを知り、守ろうとする。 ・友達と触れ合いながら好きな遊びを十分楽しむ。 ・水遊びの開放感や、気持ちよさを味わう。</p>
<p>保育の内容</p>	<p>・不安な気持ちを受け止め、徐々に園生活に慣れるようにする。 ・室内外の安全点検をし、安全に遊べるようにする。 ・一人一人の子どもの健康状態を把握して適度な休息が取れるようにし、集団生活による緊張や疲れを緩和してゆったりと過ごせるようにする。</p>	<p>・一人一人の子どもが安心して自分の気持ちを表して生活できるようにする。 ・疲れやすい時期なので、一人一人の健康状態に気を配り、水分補給や休息と遊びのバランスに配慮する。 ・雨期や夏期の保健衛生に留意し、快適に過ごせるようにする。 ・休息や午睡のしやすい環境を作り、落ち着いた雰囲気の中で心や体を十分に休めるようにする。</p>
	<p>教育（健康・人間関係・環境・言葉・表現）</p> <p>・戸外の遊具の使い方を知り、体を動かして遊ぶ。 ・楽しい雰囲気の中でおやつや食事に慣れる。 ・食事、手洗い、排泄、午睡の仕方を覚える。</p> <p>・保育者に親しみを持ち、安心して遊ぶ。 ・自分のクラスが分かり、担任や友達を覚える。 ・簡単な日常の挨拶ができ、自分で名前を言う。 ・気に入った友達と触れ合うことを楽しむ。</p> <p>・自分と他人の持ち物の区別や整理場所が分かり、保育者と一緒に持ち物の始末の仕方を覚える。 ・身近な小動物や草花を見たり、触れたりする。 ・砂、土、粘土などの感触を楽しむ。</p> <p>・絵本、紙芝居を読んでもらうことを喜ぶ。 ・したいこと、してほしいことを保育者に動作や言葉で伝えようとする。</p> <p>・知っている歌を歌ったり、簡単な手遊びを楽しんだりする。 ・身近な材料を使い、保育者と一緒にかいたりつくったりする。</p>	<p>・戸外で体を動かして遊ぶ。 ・楽しい雰囲気の中でおやつや食事を楽しむ。 ・手洗い、うがい、衣服の着脱、排泄などを自分なりにしようとする。</p> <p>・気に入った友達と触れ合って遊ぶことを楽しむ。 ・遊具や玩具を貸したり、借りたりする。 ・順番を待ったり、交代したりする。</p> <p>・雨などの自然事象に興味を持つ。 ・身近にいる小動物や草花を見たり、触れたりする。 ・身近な用具の使い方を知り、興味を持って使う。 ・水、砂、土（泥）に触れて遊ぶ。</p> <p>・「かして」「いれて」「ありがとう」「ごめんね」などの遊びや生活に必要な言葉を知り、使おうとする。 ・自分が見たこと、聞いたことを話す。 ・簡単な内容の絵本、紙芝居を見て楽しむ。</p> <p>・音楽に合わせて体を動かし、身体表現を楽しむ。 ・季節の歌を覚え友達と歌ったり、歌に合わせてリズム遊びを楽しむ。 ・見立て遊びやつもり遊びを楽しむ。 ・身近な材料や用具を使い、保育者と一緒にかいたりつくったりする。</p>
<p>環境 構成・ 援助</p>	<p>・一人一人の子どもの気持ちやありのままの姿を受け入れ、子どもとの信頼関係を築いていく。 ・子どもの視線で話をするように心がけ、優しい言葉と笑顔で関わる。 ・大まかな生活のリズムを整え、園生活に見通しが持てるようにする。 ・基本的な生活習慣については、個人差を考慮しながら対応していく。 ・持ち物の置き場所が分かるように、個々のマークを貼る。 ・好きな遊びが見つかるような環境や、遊びたくなるような環境を用意する。 ・自分の保育室だけでなく、他のクラスや園庭など子どもが好きなところで遊べるように保育者同士連携し、安全面には十分留意していく。 ・個々の様子やクラス全体の状況に常に気を配る。</p> <p>・子どもの表情から思いを受け止め、共感を持って関わっていく。 ・友達への関心が芽生えてくる頃なので、友達と一緒に楽しめるような遊びや場を用意する。 ・物の取り合いや自我のぶつかり合いなどのトラブルの場面では、それぞれの気持ちを大切に受け止めたり代弁したりして、仲立ちをしていく。 ・子どもの興味をとらえて材料や用具の数を整え、十分に楽しめるような時間や場を確保する。 ・動きが活発になり、保育者の目の届かない所へ行くなど行動範囲が広がってくるので、全体をよく把握し安全に留意する。 ・水遊びが安全に楽しめるように健康面、衛生面、安全面などに十分配慮する。</p>	
<p>（家庭との 連携）</p>	<p>・登降園時に家庭での様子を聞いたり、園での様子を伝えたりして保護者の不安を取り除くようにし、信頼関係を築いていく。 ・4月には喜んで登園していた子ども、少し慣れた頃に登園を渋ったり保護者との別れ際に泣いたりすることもあるので、園の様子を伝え保護者が安心できるようにする。 ・緊急時の連絡方法について保護者と確認する。 ・一人一人の子どもの発達状況、アレルギー、熱性けいれんなどの体質的特徴や家庭状況を児童票や家庭調査票で把握しておき、心身の変化に対応できるようにしておく。</p> <p>・健康で快適に過ごせるように規則正しい生活リズムを心がけることや、夏の病気や皮膚病などについて知らせる。 ・子ども同士のトラブルについては、3歳児としての発達的特徴を知らせ、保護者の不安を取り除き、対処の方法を伝えながら、家庭と園が連携して同じ気持ちで子育てをしていく。 ・登園前には毎日健康チェックを行ってもらい、保育者は一人一人の子どもの体調を把握する。</p>	

○幼児期の終わりまでに育ってほしい姿		カ 思考力の芽生え
ア 健康な心と体		キ 自然との関わり・生命尊重
イ 自立心		ク 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
ウ 協同性		ケ 言葉による伝え合い
エ 道徳性・規範意識の芽生え		コ 豊かな感性と表現
オ 社会生活との関わり		
期	3期（9～12月）	4期（1～3月）
子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの始末や片付けなどできることを自分でしようとする。 ・保育者や友達と十分に体を動かして遊ぶようになる。 ・友達と同じ遊びや活動をする喜び、ごっこ遊びや簡単なルールのある遊びを楽しむようになる。 ・自分の思いを保育者や友達に言葉で伝えられるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の中で自分でできることは進んでしようとする姿が多くなってくる。 ・寒くて戸外に出るのを嫌がる子もいるが、保育者が誘うと体を動かして遊ぼうとする。また、雪が降ったり氷ができたりと喜んで外に出て遊ぶ。 ・気の合った友達と一緒に遊ぶことを喜び、その中で言葉のやりとりが盛んになり、思いを伝えながら遊ぶようになる。
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達と一緒に、戸外で十分体を動かして遊ぶ楽しさを味わう。 ・友達と一緒に簡単なルールのある遊びやごっこ遊びを楽しむ。 ・身近な動植物や自然事象を見たり、触れたりして親しみを持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大きくなった喜びを感じ、進級への期待を持って生活や遊びをする。 ・生活の中で、自分でできることは進んでしようとする。 ・生活や遊びの決まりやルールが分かり、保育者や友達と楽しく過ごす。
保育の内容	養護 <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の子どもの思いを十分に受け止め、ゆったりとした生活ができるようにする。 ・戸外活動が多くなるので、活動と休息のバランスに気を配る。 ・気温の変化に応じて衣服の調節ができるように言葉がけたり手助けしたりする。 ・寒くなるので室内の温度や換気に気を付け、健康で安全に過ごせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の子どもの思いを十分に受け止めながら、情緒の安定した生活が送れるようにする。 ・寒暖の差があり、風邪が流行する時期なので、室内の温度や換気、衛生に気を付け、冬を健康で安全に過ごせるようにする。
	教育（健康・人間関係・環境・言葉・表現） <ul style="list-style-type: none"> ・戸外で十分に体を動かしたり、様々な運動遊びを楽しんだりする。 ・手洗い、うがい、衣服の着脱、排泄などを自分なりにしようとする。 ・友達と同じ活動に参加し、みんなで一緒にすることを喜び、簡単なルールのある遊びを保育者や友達と楽しむ。 ・遊んだ後の片付けや保育者の手伝いをしようとする。 ・遊具、用具の貸し借りをしたり、順番を待ったり交代したりして遊ぶ。 ・異年齢の友達と触れ合う。 ・身近な用具や材料に触れ、それらを使って遊ぶ。 ・虫などの小動物に興味を持ち、見たり触れたりして親しみを持つ。 ・木の葉、木の実、草花など自然物に興味関心を持つ。 ・身近な物の大小、色、形、量の多い少ないなどの違いに気付く。 ・様々な行事に参加し喜ぶ。 ・経験したことや自分が思ったことを話す。 ・遊びや生活の中で言葉のやりとりを楽しむ。 ・絵本や紙芝居などの簡単な内容が分かり、楽しんで聞く。 ・音楽に親しみ、聞いたり歌ったり楽器を鳴らしたりすることを楽しむ。 ・身近な材料や用具を使い、自由にかいたりつくったりすることを楽しむ。 ・イメージした物になりきって表現することを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・衣服の着脱や排泄の後始末を自分でしようとする。 ・体を動かす遊びを十分にし、寒さに負けないで元気よく過ごす。 ・危険な物や場所が分かり、気を付けて遊ぶ。 ・友達と同じ活動に参加し、みんなで一緒にすることを喜び、異年齢の友達と触れ合う。 ・霜柱、雪、氷などに関心を持ち、触れて遊ぶ。 ・身近な物の大小、色、形、量の多い少ないなどの違いに気付く。 ・草花等の様子から冬から春への季節の変化を感じる。 ・自分の思ったことや、感じたことを言葉で表し、保育者や友達と言葉のやり取りをする。 ・絵本や紙芝居などの簡単な内容が分かり、楽しんで聞く。 ・音楽に親しみ、聞いたり、歌ったり、リズムに合わせて体を動かしたりする。 ・身近な材料を使い、かいたりつくったりすることを楽しむ。
環境構成・援助	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの動きが活発になってくるので、安全面に十分配慮する。 ・一人一人の子どもの成長や友達関係を把握し、友達との関わりが持てるように、子どもの姿に合わせた援助をしていく。 ・木の葉、木の実、草花を集めたり、遊んだりして、自然に親しむ機会を大切にする。 ・子どもの気持ちを受け止めながら、様々な行事に楽しく参加できるようにする。 ・気の合う友達と遊ぶことを楽しむようになってくるので、ゆったりと遊べるように十分な時間や空間を保障する。 ・園庭整備や運動器具の安全点検を行い、十分な運動ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の子どもの基本的な生活習慣がどの程度身に付いているかを把握し、子どもの姿に合わせた援助をしていく。 ・寒さから、室内に閉じこもりがちになるので、戸外での遊びも楽しめるように工夫する。 ・霜や氷など、冬ならではの自然現象に触れる機会を大切にする。 ・トラブルが起きた時には、お互いの思いを受け止め、相手の思いに気付くように援助する。 ・一人一人の子どもの成長を認め、進級に期待が持てるようにする。
（家庭との連携）	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な行事や遊びを通して、子ども達が成長していることを保護者と共に感じられるよう、一緒に話し合っていく。 ・季節の変化に伴い体調を崩しやすいので、園での様子を知らせるなど、家庭でも健康管理に心がけてもらうようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体調を崩しやすい時期なので、手洗いやうがいの大切さを知らせるとともに、睡眠を十分取って予防に心がけてもらう。 ・子どもの成長を具体的に知らせ、保護者と共に喜び合う。

4歳児

<p>保育者 子ども 目標の</p>	<p>・保育者や友達とのつながりを広げ、目標に向かって、一緒に活動する。</p>	
<p>期</p>	<p>1期（4～5月）</p>	<p>2期（6～8月）</p>
<p>子どもの 姿</p>	<p>・ままごとやブロックなど好きな遊びを見つけ、気の合う友達と遊ぶ。 ・進級したことを喜びながらも、新しい環境に緊張する子もいる。 ・新しい友達や保育者に戸惑いや不安を感じ、安心できる場所や人を求めようとする。</p>	<p>・行動が活発になったり、行動範囲が広がり、中には危険な遊び方を する子も出てくる。 ・友達の遊んでいることに興味を持ち、同じことをやってみようしたり、 友達との関わりが多く見られ るようになる。 ・友達とのトラブルや困ったことがあった時は、保育者の意見を求めてく る。</p>
<p>ねらい</p>	<p>・新しい環境に慣れ、安心して過ごす。 ・生活の仕方が分かり、できることは自分でしようとする。 ・自分のしたい遊びを見つけ、保育者や友達と親しみ、一緒に遊ぶ。</p>	<p>・健康な生活の仕方を知り、できることは自分でする。 ・夏の遊びを通して、友達と触れ合い、一緒に遊ぶ楽しさを味わう。 ・身近な動植物や自然事象に親しみ、関心を持つ。</p>
<p>保育の 内容</p>	<p>・一人一人の子どもの思いを十分に受け止め、子どもとの信頼関係を 築く。 ・一人一人の子どもの信頼関係の中で、子どもが自分の思いを安 心して表せるようゆったりとした気持ちで接する。</p>	<p>・一人一人の子どもが安心して、自分の気持ちを表して生活できるよ うにする。 ・疲れやすい時期なので、一人一人の子どもの健康状態に気を配り、 水分補給や休息と遊びのバランスに配慮する。 ・雨期や夏期の保健衛生に留意し、快適に過ごせるようにする。 ・休息や午睡のしやすい環境を作り、落ち着いた雰囲気の中で、心や 体を十分に休めるようにする。</p>
	<p>・気温や活動によって衣服の調節を促し、快適に過ごせるようにする。 ・室内外の安全点検をし、安全に遊べるようにする。 ・保育者や友達と一緒に体を動かして遊ぶ。 ・遊具や用具に親しみ、安全な遊び方や扱い方を知る。 ・保育者や友達に親しみを持ち、一緒に遊ぶ。 ・室内外の遊具や用具などの扱い方が分かり、それらを使って遊ぶ。 ・身近な小動物や草花に親しみ、関心を持つ。 ・友達と一緒に保育者の話を聞く。 ・絵本や紙芝居の内容が分かり、楽しんで聞く。 ・自分のしたいこと、して欲しいことを保育者や友達に言葉で伝える。 ・身近な素材や用具を使って、自由にかいたりつくったりする。 ・友達と一緒に音楽を聴いたり、歌ったり、体を動かしたりして楽しむ。</p>	<p>・様々な遊びの中で、十分に体を動かす。 ・汗の始末や着替えなど、自分でできることは自分でする。 ・好きな遊びを見つけ、友達を誘って一緒に遊ぶ。 ・生活の中で、決まりの大切さに気付き、守ろうとする。 ・共同の物を大切に、譲り合う気持ちを持つ。 ・異年齢の友達に親しみを持ち、関わって遊ぶ。 ・遊具や用具に関心を持ち、いじったり試したりする。 ・身近な小動物や草花を見たり触れたりして興味を持ち、保育者と一 緒に世話をする。 ・遊びや生活の中で、数や量などに関心を持つ。 ・保育者や友達の話に親しみを持って聞き、様々な言葉に興味を持 つ。 ・自分のしたこと見たこと、感じたことを保育者や友達に話す。 ・身近な素材や用具を使い、かいたりつくったりする。 ・自分でつくったものを使って遊ぶ楽しさを味わう。 ・友達と一緒に歌を歌ったり、リズムに合わせて楽器を打ったりする。</p>
<p>環境 構成・ 援助</p>	<p>・一人一人の子どもの気持ちを受け入れ、信頼関係を築き、安心して 過ごせるようにする。 ・保育者もクラスの一人として遊びに参加し、みんなと一緒に過ごす楽 しさを知らせていく。 ・年少児の時に慣れ親しんだ遊びが継続できるよう環境を整える。 ・一人一人の子どもが自分のしたい遊びを十分楽しめるようにしなが ら、クラスの友達と遊ぶ楽しさも味わえるようにする。</p>	<p>・保育者も一緒に遊び、友達との接し方や遊び方を知らせていく。 ・一人一人の子どもの何気ない姿や言動を見逃さないようにし、気持 ちを理解することで信頼感を深めていく。 ・水遊びが安全に楽しめるように、健康面、衛生面、安全面などに十 分配慮する。 ・子どもの興味や動きを把握し、自分から遊びや活動に取り組めるよ うな環境を整える。 ・動きが活発になり危険な行動が見られるので、室内外での安全な 過ごし方を知らせる。</p>
<p>（家庭 との 連携） 子育て 支援</p>	<p>・一人一人の子どもの緊張と不安を十分に受け止めるとともに、安心 して登園できるように保護者から家庭での様子を聞き理解に努めるよ うにする。 ・送迎時や懇談会、たよりなどで、子どもの様子を分かりやすく伝え、 保護者との信頼関係を築いていく。 ・保護者の心配事や質問などに対しては、個別に丁寧に応じる。 ・緊急時の連絡方法について保護者と確認する。 ・一人一人の子どもの発達状況、アレルギー、熱性けいれんなどの体 質的特徴や家庭状況を児童票や家庭調査票で把握しておき、心身 の変化に対応できるようにしておく。</p>	

○幼児期の終わりまでに育ってほしい姿		カ 思考力の芽生え
ア 健康な心と体		キ 自然との関わり・生命尊重
イ 自立心		ク 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
ウ 協同性		ケ 言葉による伝え合い
エ 道徳性・規範意識の芽生え		コ 豊かな感性と表現
オ 社会生活との関わり		
期	3期（9～12月）	4期（1～3月）
子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> 遊びによって友達関係に変化が見られ、違った仲間関係が広がってくる。 一人一人の子どもの興味や関心が広がり、自分なりにやってみようとしたり、頑張ろうとしたりする。 気の合う友達と一緒に様々な遊びの中で、ルールを守って遊ぶ。 友達と一緒につくることを楽しむ中で、お互いの物を認め合う姿が見られ、遊びが広がる。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達とのつながりが深まり、自分の思いや考えを伝えたり友達の思いを受け入れたりしようとする。 友達と遊ぶ中で、仲間意識が強くなる。 進級することに期待を持ち、様々な遊びや活動をする中で、意欲的に活動するようになる。
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 友達と十分に体を動かすことを楽しみ、決まりやルールを守って遊ぶ。 身近な自然物などに、興味や関心を持って、見たり触れたりして遊ぶ。 感じたことや考えたことを、自分なりに表現することを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な遊びに興味を持ち、保育者や友達と関わり、自分の力を発揮して活動に取り組む。 年長児になることを喜び、自信を持って行動する。
保育の内容	養護 <ul style="list-style-type: none"> 一人一人の子どもの気持ちや行動に気を配り、十分関わりながら受け止めるようにする。 活動的な遊びが多くなるので、子どもの状態に合わせて休息を取るようにする。 気温の変化に応じて衣服の調節を促す。 寒くなるので室内の温度や換気に気を付け、健康で安全に過ごせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の子どもの気持ちや考えを受け止め、好きな遊びにじっくり取り組めるような場を作り安定した生活が送れるようにする。 寒暖の差があり、風邪が流行する時期なので、室内の温度や換気、衛生に気を付け、冬を健康で安全に過ごせるようにする。
	教育（健康・人間関係・環境・言葉・表現） <ul style="list-style-type: none"> 様々な遊具や用具を使い、積極的に運動や遊びをする。 健康な生活に必要な習慣を身に付ける。 簡単な決まりやルールを守って友達と一緒に遊ぶ。 クラスみんなで活動する楽しさを味わう。 異年齢の友達と親しみ、一緒に遊ぶ。 自然の美しさに触れたり、自然物を使って遊んだりすることを楽しむ。 色、形、長短などに興味を持ち、分けたり集めたりして遊ぶ。 数や量に関心を持ち、簡単な数の範囲で数えたり比べたりする。 自分のしたこと見たこと、感じたことを保育者や友達に話す。 絵本や簡単な童話を聞き、イメージを膨らませる。 様々な遊びに使う物を自由にかいたりつくったりする。 絵本や童話を聞き、自分がイメージしたことを動きや言葉で表現して楽しむ。 音楽に合わせて体を動かしたり、感じたままに表現する楽しさを味わったりする。 友達と一緒に歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりすることを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 寒さに負けず、積極的に戸外で遊ぶ。 冬の健康に必要な生活習慣を身に付ける。 決まりやルールを守って友達と一緒に遊ぶ。 良いこと悪いことがあることに気付き、考えて行動する。 異年齢の友達と親しみ、一緒に遊ぶ。 冬の自然事象に触れ、感動したり疑問を持ったりする。 数や量に関心を持ち、簡単な数の範囲で数えたり比べたりする。 簡単な標識や記号、文字などに興味関心を持つ。 虫や草花、風などの様子に気付き季節の移り変わりを知る。 保育者や友達の話に興味を持ち、聞いたり話したりする。 自分の思いや考えを言葉で相手に伝える。 様々な遊びに使う物を工夫してかいたりつくったりする。 友達と一緒に歌を歌ったり、リズムに合わせて楽器を打つ楽しさを味わう。
環境構成・援助	<ul style="list-style-type: none"> 友達関係や遊びに広がりが出てくる時期なので、自分の考えや思いを十分に出来るように一緒に活動する喜びが味わえるようにする。 一人一人の子どものそれぞれの興味に応じた活動に取り組めるよう、様々な素材や用具を十分に用意し、やってみようとする意欲が持てるようにする。 子ども達が運動遊びの楽しさを味わえるように、保育者も子どもと一緒に体を動かす。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の子どもの基本的な生活習慣が身に付いているかを確認し、子どもの姿に合わせた援助をしていく。 子ども達が思いや考えを伝え合えるように、見守ったり、必要に応じて仲立ちをする。 遊びの中で満足感、充実感が味わえるようにし、安定した気持ちで過ごせるようにする。 年長児と交流する機会を設け、様々な遊びや当番活動の中で年長組になる期待が持てるようにする。 玩具や遊びコーナーを整え、子どもが自分で考えたり工夫したりして遊びを進められるようにする。 一人一人の子どもの遊びに取り組む姿や友達と関わる姿を見守り、進級することへの自信が持てるようにする。
（家庭との連携）	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の子どもの成長の様子や取り組んでいる姿を伝え、保護者と共に喜び合う。 季節の変化に伴い体調を崩しやすいので、園の様子を知らせるなどして、家庭でも健康管理に心がけてもらうようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 風邪などで体調を崩しやすい時期なので、手洗いやうがいの大切さを知らせるとともに、睡眠を十分に取って予防に心がけてもらう。 子どもの成長を具体的に知らせ、保護者と共に喜び合う。

5歳児

<p>保 子 ど も 目 標 の</p>	<p>・生活の遊びの中で、一つの目標に向かい、友達と力を合わせて活動する。</p>	
<p>期</p>	<p>1期（4～5月）</p>	<p>2期（6～8月）</p>
<p>子 ど も の 姿</p>	<p>・年長児になった嬉しさから新しいことに積極的に取り組もうとするが、中には緊張感や不安感を持つ子どももいる。 ・年長児になった喜びから、年下の子の世話をしようとする。</p>	<p>・落ち着いた気持ちで生活するようになり、当番活動などにも積極的に取り組むようになる。 ・感じたことや考えたことを伝え合い、試したり工夫したりしようとする。 ・気の合う友達と一緒に遊びを進めていこうとするようになり、問題に出会った時など、自分達で解決していこうとする。 ・身の回りの自然事象や事物に対して興味関心が高まり、よく見たり考えたりする。</p>
<p>ね ら い</p>	<p>・新しい環境に慣れ、保育者や友達と遊びや生活を楽しむ。 ・年長児としての意識を持ち、自分たちの生活に見通しを持って過ごす。 ・身近な自然に触れたり、動植物の世話をしたりして、関心や親しみを持つ。 ・戸外で保育者や友達と体を動かして意欲的に遊ぶ。</p>	<p>・雨期や夏期の健康な生活の仕方が分かり、身の回りのことは自分でしようとする。 ・身近な自然や環境に触れ、見たり試したり考えたりして遊ぶ。 ・友達とのつながりを深め、互いの思いを伝え合いながら遊びを進める。</p>
<p>保 育 の 内 容</p>	<p>養 護</p> <p>・一人一人の子どもの気持ちを受け止め、信頼関係の中で自分の気持ちが表せるようにする。 ・気温差に応じて衣服の調節を促し、気持ちよく過ごせるようにする。 ・室内外の安全点検をし、安全に遊べるようにする。</p>	<p>・一人一人の子どもが安心して自分の気持ちや考えを表して生活できるようにする。 ・雨期や夏期の保健衛生に十分に配慮し、快適に過ごせるようにする。 ・休息や午睡のしやすい環境を作り、落ち着いた雰囲気の中で心や体を休めるようにする。 ・疲れやすい時期なので、一人一人の子どもの健康状態に気を配り、水分補給や休息と遊びのバランスに配慮する。</p>
	<p>教 育 （ 健 康 ・ 人 間 関 係 ・ 環 境 ・ 言 葉 ・ 表 現 ）</p> <p>・戸外で体を動かして遊ぶ。 ・園生活での決まりを確認し、年長としての生活の仕方や習慣を身に付ける。 ・安全に気を付けて、遊具や用具を正しく使う。</p> <p>・保育者や友達との安定した関係の中で意欲的に遊ぶ。 ・自分の考えを伝えたり、相手の気持ちを聞いたりして遊ぶ。 ・友達と楽しく生活する中で、決まりの大切さに気付く。 ・年下の子どもの世話をし、親しみの気持ちを持つ。</p> <p>・身近な小動物や草花、野菜に親しみ世話をし、成長の変化に興味を持つ。 ・生活や遊びの中で、簡単な数を数えたり比べたりする。 ・生活や遊びの中で、文字に関心を持つ。</p> <p>・自分の気持ちや要求を相手に分かるように伝えようとする。 ・保育者や友達の話に注意して聞き、内容を理解する。 ・親しみを持って、日常のあいさつをする。</p> <p>・身近な素材や用具を使ってかいたりつくったりすることを楽しむ。 ・音楽に親しみ、友達と一緒に歌ったり、曲に合わせてリズム打ちを楽しんだりする。 ・音楽に合わせて、体を動かしたり、表現する楽しさを味わう。</p>	<p>・泥んこや水遊びなどで、全身を使って遊ぶ。 ・園生活での決まりを確認し、年長としての生活の仕方や習慣を身に付ける。 ・自分から気付いて汗の始末や衣服の調節をする。</p> <p>・友達と積極的に関わり、思いや考えを伝え合って遊びを進めていく。 ・共同の遊具や用具を大切に、譲り合って使う。 ・友達と楽しく生活する中で、決まりの大切さに気づき、守ろうとする。 ・友達と一緒に簡単なルールを作り、遊びを楽しむ。 ・年下の子どもの関わりを深め、思いやりやいたわりの気持ちを持つ。</p> <p>・身近な小動物や草花、野菜に親しみ、世話をしたり疑問に思ったことを調べたりする。 ・遊びや生活の中で、数、量、色、形などに関心を持つ。 ・遊びや生活の中で、物の仕組みや変化、性質に関心を持つ。</p> <p>・発見したこと、感じたこと、疑問に思ったことなどを話す。 ・自分の思いが相手に伝わるように話し、友達の話すこともよく聞く。 ・絵本や童話に親しみ、興味を持って聞き、想像する楽しさを味わう。</p> <p>・様々な素材を使って、色の美しさ、形の組み合わせに関心を持って遊ぶ。 ・見たこと、経験したことをかいたり、つくったりして楽しむ。 ・友達と一緒にリズムに合わせて身体表現をする。 ・音楽に親しみ、友達と一緒に歌ったり楽器を使ったりすることを楽しむ。</p>
<p>環 境 構 成 ・ 援 助</p>	<p>・年長になり張り切る気持ちや役に立ちたい気持ちを認め、年長としての意識や意欲が高められるように援助する。 ・生活の仕方や持ち物や玩具の置き方などを、子ども達と話し合いながら決め、自分たちで進んで生活や遊びに取り組めるようにする。 ・年長になった喜びを受け止めながら、緊張感や不安感を持つ子には、安定できるように援助していく。</p> <p>・自分なりの目的を持って取り組む姿をあたかく見守り、一人一人の子どもの様子に合わせた援助をしながら自信が持てるようにしていく。 ・トラブルが起きた時は、様子を見守り、子ども同士で解決ができない時は、互いの考えに気付くよう話し合いの場を持つようにする。 ・子どもの驚きや発見、感動や疑問など丁寧に受け止め、共感したり一緒に考えたりしながら意欲や好奇心につなげていく。 ・試したり考えたり工夫したりすることができるような材料や用具を整えておく。 ・子どもが自然に十分関わり、興味関心が高まるような環境を用意する。 ・水遊びが安全に楽しめるように健康面、衛生面、安全面などに十分配慮する。</p>	
<p>（ 家 庭 と の 支 援 ）</p>	<p>・園や家庭での様子を伝え合いながら、保護者一人一人との信頼関係を築いていく。 ・登降園や懇談会などで年長組になって張り切っている子どもの様子を伝え、芽生えてきた自信や意欲と一緒に受け止めていくようにする。 ・緊急時の連絡方法について保護者と確認する。 ・一人一人の子どもの発達状況、アレルギー、熱性けいれんなどの体質的特徴や家庭状況を児童票や家庭調査票で把握しておき、心身の変化に対応できるようにしておく。</p> <p>・雨期は気候が不順で体調を崩しやすいので、保健衛生について知らせ、子どもの様子を伝え合う。 ・健康で快適に過ごせるように、規則正しい生活リズムを心がけることや夏の病気や皮膚病などについて知らせる。 ・登園前には毎日健康チェックを行ってもらい、保育者は一人一人の子どもの体調を把握する。</p>	

○幼児期の終わりまでに育ってほしい姿		カ 思考力の芽生え
ア 健康な心と体		キ 自然との関わり・生命尊重
イ 自立心		ク 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
ウ 協同性		ケ 言葉による伝え合い
エ 道徳性・規範意識の芽生え		コ 豊かな感性と表現
オ 社会生活との関わり		
期	3期（9～12月）	4期（1～3月）
子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> 自分の目標を持って繰り返し挑戦しようとする。 友達の思いや考えを受け入れながら、共通の目的に向かって協力して遊びを進めようとする。またトラブルが起きた時は話し合いをし、解決しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活や活動の見通しがもてるようになり、物事に積極的に取り組み、自主的に生活を進めようとする。 友達同士、力を認め合い、助け合いながら意欲的に遊びを進めていこうとする。 友達の姿に刺激され、自分でもしてみようとする。 就学への期待と喜びを持って、自分のことは自分で考え行動しようとする。
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 生活の中で健康や安全など基本的な習慣や態度を身に付ける。 友達と協力して戸外で様々な運動や集団遊びを楽しむ。 身近な自然に興味関心を持ち、自然物を使って様々な遊びを楽しむ。 自分の思ったことや感じたことを様々な方法で表現することを楽しむ。 様々なことに関心を示し意欲的に活動に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 冬の健康に必要な生活習慣や態度、生活リズムを身に付ける。 同じ目的を持って、友達と協同的な遊びをする。 生活に見通しを持ち、自主的に遊びや生活を進める。 成長したことを喜び、自覚や自信を持って行動する。
保育の内容	養護 <ul style="list-style-type: none"> 一人一人の子どもの気持ちや行動に気を配り、十分に関わりながら受け止める。 活動的な遊びが多くなるので、適切な休息や水分補給をする。 寒くなるので室内の温度や換気に気を付け、健康で安全に過ごせるようにする。 気温の変化に応じて自分で衣服の調節をするよう促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の子どもの気持ちや考えを受け止め、遊びにじっくり取り組める場を作り、安定した気持ちで遊びを進めたり、充実した生活が送れるようにする。 寒暖の差があり、風邪が流行する時期なので、室内の温度や換気など衛生に気を付け、冬を健康で安全に過ごせるようにする。
	教育（健康・人間関係・環境・言葉・表現） <ul style="list-style-type: none"> 様々な遊具や運動器具を使った遊びを進んで行う。 戸外遊びに意欲的に取り組み、友達と一緒に遊びを楽しむ。 病気の予防に関心を持ち、健康な生活の習慣を身に付ける。 友達と思いや考えを伝え合ったりルールを確かめ合ったりしながら遊びを進める。 年下の子どもに思いやりやいたわりの気持ちを持ち、遊んだり世話をしたりする。 良いこと悪いことを自分で考えて行動しようとする。 身近な自然を通し、季節や生活の変化に気付く。 身近にある物の動きや仕組みに関心を持ち、試したり工夫したりして遊ぶ。 数、量、図形、位置、時間などに関心を持ち、それらを取り入れて遊ぶ。 友達と共通の話題について話し合う。 絵本や物語などに親しみ、内容に興味関心を持って聞き、イメージや言葉を豊かにする。 日常生活の中で、状況に応じた言葉を使う。 考えたことや経験したことを保育者や友達に話し、会話を楽しむ。 友達と一緒に遊びで使う物を工夫して作る。 友達と歌を歌ったり楽器を使ったりして、曲の感じやリズムの変化を楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 寒さに負けず、十分に体を動かし様々な遊びをする。 冬の健康に必要な生活習慣を身に付ける。 友達と役割分担をしたり協力したりして、お互いの存在を認め合い意欲的に生活や遊びを進める。 友達と考えや意見を言い合ったり、相手の意見を受け入れたりしながら、仲間と協調する。 まわりの人の気持ちを考えて迷惑をかけないように行動しようとする。 自然現象に親しみ、その性質や変化、大きさ、美しさ、不思議さなどへの関心を深める。 数、量、図形、位置、時間などに関心を持つ。 虫や草花や風などの様子に気付く季節の移り変わりを知る。 自分の思ったことを分るように話し、相手の話も理解して受け入れる。 身近にある文字や記号などに関心を持ち、生活や遊びに取り入れる。 材料や用具を目的に合わせて選び、のびのびと表現する。 曲想を感じたり、感情を込めて歌ったりする。
環境構成・援助	<ul style="list-style-type: none"> 繰り返し挑戦したり努力している姿を認め、達成した喜びに共感しながら自信につなげていく。 トラブルが起きた時は、子ども達に投げかけて一緒に考えるようにしていく。 子ども達が分担したり協力したりしながら進める姿を大切に見守り、みんなでやり遂げた喜びや満足感が味わえるようにする。 園庭整備や運動器具の安全点検を行い、十分な運動ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自主的に生活や遊びを進めていこうとする態度を温かく見守り、自信につなげていく。 一人一人の子どもの成長を認め、共に喜び合いながら、卒園までの時期をゆとりを持って過ごせるようにする。 就学の喜びや期待に共感したり不安を受け止めたりしながら、就学を楽しみにできるような雰囲気作りや言葉がけをする。
（家庭との連携）	<ul style="list-style-type: none"> 園行事の考え方や子どもの様子をクラスだよりなどで知らせる。 季節の変化に伴い体調を崩しやすいので園での様子を知らせるなどして、家庭でも健康管理に心がけてもらうようにする。 冬に向かって健康に過ごせるよう、家庭でも薄着、手洗い、うがいなどの習慣が身に付くよう知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 風邪などで体調を崩しやすい時期なので、手洗いやうがいの大切さを知らせるとともに、睡眠を十分に取って予防に心がけてもらう。 日々の生活や取り組みの中で、一人一人の子どもの様子を伝え、成長した姿を保護者と共に喜び合えるようにする。 安心して就学が迎えられるよう、小学校への楽しいイメージ作りに心がけてもらう。

食育年間計画

食育の目標 おいしく、楽しく食べて、心身共に健やかに育ち、食を営む力を育む。					
子ども像	内容				
①お腹がすくリズムのもてる子ども	食を通じて、健康な心と体を育て、自らが健康で安全な生活をつくり出す力を養う				
②食べたいもの、好きなものが増える子ども	食を通じて、他の人々と親しみ支え合うために、自立心を育て、人とかかわる力を養う				
③一緒に食べたい人がいる子ども	食を通じて、人々が築き、継承してきた様々な文化を理解し、つくり出す力を養う				
④食事づくり、準備にかかわる子ども	食を通じて、自らも含めたすべてのいのちを大切にすることを養う				
⑤食べものを話題にする子ども	食を通じて、素材に目を向け、素材にかかわり、素材を調理することに関心を持つ力を養う				
食育を通しての育ち（・）と配慮（★）	月齢：5～6か月（前期）	月齢：7～8か月（中期）	月齢：9～11か月（後期）	月齢：12～18か月（完了期）	
	0歳児	・粒のないドロドロ状を飲み込む。 ★食事の進み具合など、一人一人に合わせた配慮をする。	・舌でつぶして食べる。 ・いろいろな食品に慣れる。	・舌で転がし、歯茎でつぶして食べる。 ・手でつかんで自分で口に運ぶ。 ★のどに詰まらせないように十分に気をつける。	・もぐもぐと噛んで食べる。 ★噛む力が未熟なので、個人差に配慮する。 ★食べる意欲がわく形態を取り入れる。
	I 期 4月～5月	II 期 6月～9月	III 期 10月～12月	IV 期 1月～3月	
	1・2歳児	・安心した雰囲気の中で食事をする。 ★保育者も一緒に食べながら「おいしいね」と言葉かけ、楽しく穏やかな雰囲気の中で食事ができるようにする。 ★子どもの気持ちを受け止め、摂取量、好み、家庭の食事状況を把握し、少量から進める。 ★苦手な物は少なめに盛り付け、意欲を引き出す。	・自分に合った量を残さず食べる。		・大人と一緒に挨拶をする。 ・友達や大人と一緒においしく食べる。 ・食べ終わった後、手や口をきれいにする。
	3・4・5歳児	・食事の習慣やマナーを身につけ、保育者や友達と一緒に楽しく食事をする。 ・食事を楽しみにする。 ・「いただきます」「ごちそうさま」の挨拶をする。 ・収穫物の大きさや重さを、比べたり数えたりする。 ・当番活動をする。 ★落ち着いた食べる環境作りをする。 ★個々の食事量や偏食について、保護者と連携を図る。	・量を増やしながら、こぼさずきれいに食べる。 ・よい姿勢で楽しく食事する。 ・畑の栽培を通し、旬を知り、季節感を味わう。	・苦手な物も少しずつ食べる。 ・畑の栽培、収穫を体験して、育てたものを食べられる喜びを味わう。 ・食事を作ってくれる人に感謝の気持ちをもつ。	・食事の片付けをする。 ・食べ物と身体の関係に関心をもつ。 ★4月から3月の身長や体重の変化を、具体的にわかりやすく知らせ、自分の体の成長と食べ物の関係に関心をもてるようにする。
*アレルギー児への配慮を行う。（除去、代替）					

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		・行事食や旬の食材に関心をもつ。											
食文化の伝承	畑	よもぎだんご たけのこご飯	ちまき		七夕汁 (天の川素麺)	夏野菜カレー	月見だんご おはぎ	さつまいもご飯	秋のきのこ汁	冬至かぼちゃ クリスマス	七草がゆ	節分いわし 豆まき	ひなまつりの ちらし寿司 ぼたもち・赤飯
	畑	植え蒔	夏野菜(なす、きゅうり、トマト、ピーマンなど)	さつまいも					玉ねぎ			じゃがいも えんどうまめ	
	畑	収穫	えんどうまめ	じゃがいも	夏野菜(なす、きゅうり、トマト、ピーマンなど)				さつまいも				

保健年間計画

月	目標	配慮および留意事項	保護者への働きかけ (家庭との連携)	保健行事	保健事務 (記録・書類)
4	・新しい環境での生活に慣れる。	・清潔で安全な環境作りをし、事故防止に努める。 ・一人一人の子どもの発達状況、アレルギー、熱性痙攣などの体質的特徴や家庭状況を児童票や健康の記録で把握しておき、心身の変化に対応できるようにしておく。	・環境の変化により体調を崩したり、不安定になることもあるので、家庭ではゆったりと過ごしてもらうようにする。	・内科検診 ・歯科検診 ・フッ化物洗口開始 (年長児対象)	・健康の記録 ・アレルギーに関する書類 ・検診結果記録と保護者への通知 ・フッ化物洗口指示書 ・睡眠チェック表
5	・健康な生活リズムをつくる。	・気温や活動によって、衣服の調節を促し、快適に過ごせるようにする。	・疲れが出やすい時期なので、家庭でも子どもの様子に気をつけてもらう。	・発育測定	・発育測定結果の通知
6	・梅雨期を健康に過ごす。 ・歯の衛生に関心をもつ。	・雨期の保健衛生に留意し、快適に過ごせるようにする。	・雨期は気候が不順で、体調を崩しやすいため、子どもの様子を伝え合う。	・尿検査 ・歯磨き指導 ・視力検査 (年中児対象)	
7	・水遊びを通して、健康な体づくりを行う。	・夏期の保健衛生に留意し、快適に過ごせるようにする。 ・熱中症になりやすい時期なので、一人一人の健康状態に気を配り、水分補給や休息と遊びのバランスに気をつける。	・健康で快適に過ごすことができるよう、規則正しい生活リズムに気をつけることや、夏の病気や皮膚病などについて知らせる。	・発育測定	・発育測定結果の通知 ・健康チェック表 ・水遊び管理日誌 ・熱中症計による気温・湿度の測定
8	・暑さに負けず、健康に過ごす。				
9	・活動と休息のバランスを図りながら、夏の疲れをとる。	・残暑が厳しい日が続いたり、戸外活動も多くなるので、一人一人の健康状態に気を配り、水分補給や休息と遊びのバランスに気をつける。	・季節の変化に伴い、体調を崩しやすいので、園での様子を知らせるなどして、家庭でも健康管理に心がけてもらうようにする。	・発育測定	・発育測定結果の通知
10	・戸外で体を動かし、体力増進を図る。		・戸外で活発に遊ぶ時期なので、活動しやすい服装や足に合った靴を用意してもらう。	・内科検診 ・歯科検診 ・発育測定	・検診結果および発育測定結果の通知
11	・寒さに負けない体力づくりをする。	・子どもの動きが活発になってくるので、安全面に十分配慮する。	・衣服の調節がしやすい服装を用意してもらう。		
12	・インフルエンザや風邪の予防に努める。	・気温や活動に合わせて衣服の調節をし、薄着の習慣をつけるようにする。	・インフルエンザや風邪が流行し始める時期なので、家庭でも予防に心がけてもらう。		・インフルエンザ感染者数の報告
1	・寒さに負けず、元気に過ごす。	・室内の温度や換気、衛生に気をつけ、健康で安全に過ごせるようにする。	・インフルエンザや風邪などで、体調を崩しやすい時期なので、手洗いうがいの大切さを知らせるとともに、睡眠を十分とって、予防に心がけてもらう。	・発育測定	・発育測定結果の通知
2	・インフルエンザや風邪の予防に努める。	・インフルエンザや風邪などの感染症が流行する時期なので、手洗いうがいの大切さを知らせるとともに、子どもの健康状態について十分気をつける。		・フッ化物洗口説明会 (年中児保護者対象)	・フッ化物洗口申込書の配布および回収
3	・一年の成長を喜び、健康な生活に必要な習慣を見直す。	・子どもの成長を保護者と共に喜ぶ。 ・一人一人の生活習慣を見直し、確認する。	・子どもの成長を知らせ、安心して、進級、入学を迎えられるようにする。	・発育測定	・発育測定結果の通知

- * 冊子「ほけん関係書類」の作成・配布(くすりの連絡表・全治証明書・医師による登園許可書)
- * アレルギー関係書類の作成(対応申請書・食物除去の指示書・エピペン指示書・除去解除申請書)
- * 看護師によるほけんだよりの配布(毎月)・看護師による園訪問(年4回)